

平成 29 年度活動報告書について

シニアネットワーク東北

代表幹事 工藤昭雄

『平成 29 年度の学生との対話活動』は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来 7 年を経過して尚、脱原発・卒原発の声がある中、シニアネットワーク東北の「原子力発電の啓蒙、普及を図る」という本来の目的に沿ってほぼ計画通り、長岡科学技術大学（6 月）、宮城教育大学(11 月)、青森大学（11 月）、山形大学(12 月)、東北大学（12 月）、宮城学院女子大学（12 月）、福島高専（1 月）、八戸工業大学（2 月）、東北学院大学（2 月）の 9 校で実施することができた。

この中で宮城教育大学での対話活動は、シニアネットワーク連絡会との共催ではあるが、シニアネットワーク東北が主体的に動き実現させたものである。

一方、前年度まで継続してきた仙台高専は、学校側の事情により実現できなかったが、今後の継続を図っていきたい。

また、平成 29 年度から東北エネルギー懇談会のご厚意により使用してきた教育用放射線計測器「ミスターガンマ」8 台がシニアネットワーク東北に譲渡され、測定を通じた身近な放射線の実感に一層活用できるようになった。

更にシニアネットワーク東北内に立ち上げた「若者と地層処分を学ぶ会（東北）」を通し高レベル放射性廃棄物の処理・処分の学習活動として、11 月には東北学院大学学生と幌延深地層研究センターの見学会も実施した。

シニアネットワーク東北は、平成 20 年 12 月に設立され、先輩格である日本原子力学会シニアネットワーク連絡会と共同もしくは単独に、東北エリアで原子力の啓蒙活動を行っており、今年で 10 周年を迎えた。

現在 10 周年記念として、総会に合わせ「原子力と地域の共生」をテーマとしたシンポジウムの開催と「放射線被ばく健康への影響」を纏めた冊子を発行した。

我々シニアネットワーク東北は、本 10 周年を期に更なる活動活性化に努めて参る決意であることを申し上げたい。

シニアネットワーク東北 平成29年度活動報告

1. 第9回定期総会

日時 平成29年6月8日(木) 15:00~15:50

場所 東北エネルギー懇談会会議室

平成28年度の活動報告、会計報告が承認され、平成29年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。

記念講演 (第21回会員勉強会参照)

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成29年5月25日(木) 10:00~17:00

場所 仙台市 東北電力本店ビル1E会議室

参加者 計49名

新入社員 39名

シニア 10名 (SNW東北5名 SNW連絡会5名)

基調講演 「エネルギー・原子力について考える」

講師 早野睦彦氏 SNW連絡会代表幹事

基調講演は人類文明の発展とエネルギーとのかかわりの話を起点として、原子力の現状と課題まで幅広い話があった。

基調講演の後、5グループに分かれて新入社員と対話し、対話後受講生が1分間スピーチを行った。

(2) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催 (7回目)

日時 平成29年6月21日(水) 13:00~16:30

場所 長岡技術科学大学 原子力システム安全棟

参加者 計23名

大学院学生 13名

大学 1名 大塚雄市准教授

シニア 8名 (SNW東北4名 SNW連絡会4名)

基調講演「原子力の発電所の安全対策」

講師 大野崇氏 SNW連絡会

30分間の基調講演の後、参加者全員が4グループに分かれ、約1時間半に

わたり予め設定されたグループごとのテーマに焦点を当てた対話を実施した。その後、全員が集合してグループごとの発表と質疑応答が活発に行われた。大塚先生は平成 27 年度日本原子力学会関東・甲信越支部の「原子力知識・知識の普及貢献賞」を受賞され、“原子力システム工学の視点を導入した原子力発電リスク認識のための立地地域の普及活動”を展開されている。

(3) 宮城教育大学 SNW連絡会と共催 (1回目)

日時 平成 29 年 11 月 14 日 (火) 13:00~16:30

場所 宮城教育大学 教育学部 223 号室
(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149)

参加者 計 21 名

学生 13 名 教育学部 (1 年生 10 名、2 年生 1 名、3 年生 1 名、4 年生 1 名、うち女学生 10 名)

大学 1 名 福田善之教授

シニア 7 名 (SNW 東北 4 名 SNW 連絡会 3 名)

基調講演 「身の回りの放射線」

講師 矢野歳和副代表幹事

基調講演の後、参加者全員が 3 グループに分かれ、予め設定されたグループごとの対話テーマに焦点を当てた対話を実施した。今回初めての対話会は SNW 東北の工藤代表幹事が熱心に大学側に働きかけ、福田先生 (教育学部) のご尽力により実現したものであり、今後も継続していくことが望まれる。

(4) 青森大学 (8回目)

日時 平成 28 年 11 月 22 日 (水) 14:40~17:30

場所 青森大学 6 号棟

参加者 計 36 名

学生 29 名 (ソフトウェア情報学部)

大学 1 名 ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授

SNW 東北 6 名

基調講演 1 「放射線と放射能」

講師 松野秀男監事

持参した放射線計測器「ミスターガンマ」8 台を使用して放射線計測の実習を行った後、パワーポイントを使って放射線は身の回りにありふれていること、問題はその量であることなど説明した。

基調講演2 「地球環境とエネルギー」

講師 涌沢光春幹事

1枚のレジメと説明用の冊子「暮らしの中のエネルギー」を用い、口頭で石油危機、S+3Eのキーワードで解説した。

基調講演の後、3グループに分かれて約1時間の対話を行った。

(5) 山形大学 SNW連絡会と共催 (4回目)

日時 平成28年12月4日(月) 13:00~17:00

場所 山形大学工学部(米沢市城南4-3-16)

参加者 計50名

学生 37名 電気・電子工学専攻3年生

大学 1名 大学院理工学研究科 杉本俊之准教授

シニア 12名(SNW東北6名、SNW連絡会6名)

基調講演「これからのエネルギー選択を考える～各エネルギーの特徴と課題」

講師 齋藤伸三氏 SNW連絡会

山形大学工学部でSNWとの対話会を行うのは昨年に続き4回目で、電気電子工学3年生の「電力工学」を受講した学生に対して授業の一環として行っている。昨年まで担当していた東山教授の後任となられた杉本准教授が、これまでの方針を引き継ぎ授業の一環として対話会を実現して頂いた。

基調講演の後3つのテーマに別れ、各班数名の学生とシニア2人が学生から出された質問を話題に対話した。対話は同専攻の修士1年の学生主導の下に進められた。

(6) 東北大学 SNW連絡会との共催 (12回目)

日時 平成28年12月12日(火) 13:00~17:45

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学専攻

参加者 計44名

学生 28名 量子エネルギー工学専攻学生 M1, B4

大学 4名

シニア 12名(SNW東北6名、SNW連絡会6名)

今回で12回目となる東北大学での対話会の最大の特徴は、一昨年度から大学側の要望で対話間を最大限確保することで計画したこと。今回も昨年同様に基調講演なしで、事前質問を受けた上で、対話に約3時間割り当てた。テーマを4つに分け、シニアは下記テーマおよび共通テーマ(原子力の将来)を担当した。

A グループ：学生に求められる能力

B グループ：放射性廃棄物の処分

C グループ：核融合・核燃料サイクル

D グループ：原子力発電所の安全性・福島第一の廃止措置

学生各 Gr が共通テーマおよび選択 2 テーマなどは従来通りで、学生幹事が主体的に実施した。今回はベネズエラからの留学生が一生懸命努めた。

(7) 宮城学院女子大学 ミニ講義 (8 回目)

日時 平成 29 年 12 月 15 日 (金) 8:50~10:20

場所 宮城学院女子大学講義館 4 階

参加者 計 30 名

学生 22 名 生活科学部生活文化デザイン学科 3 年生

大学 2 名 本間義規教授ほか

SNW 東北 6 名

ミニ講義 「日常生活の中の放射線」

講師 高橋實幹事

30 分のミニ講義のあと、3 グループに分かれて放射線計測器を使った学生から出ていた質問に対する説明と対話を行った。このような簡単な講義や実習でも、放射線が身近にもあることを理解するのにつながる。

(8) 福島工業高等専門学校 SNW 連絡会と共催 (3 回目)

日時 平成 30 年 1 月 11 日 (木) 13:00~17:30

場所 福島工業高等専門学校本館 (いわき市平上荒川字長尾 3 0)

参加者 計 50 名

学生 36 名 4 年生 内女子学生 9 名

高専 2 名 鈴木茂和准教授 赤尾尚洋准教授

シニア 12 名 (SNW 東北 6 名 SNW 連絡会 6 名)

基調講演 「放射性廃棄物対策」

講師 坪谷隆夫氏 SNW 連絡会副会長

基調講演の後 4 班に分かれ、各班数名の学生とシニアが学生から出された質問を話題に対話した。鈴木先生は、廃炉ロボット技術で積極的に学生の能力を開発される傍ら、地層処分関連施設の見学会やシニアとの対話会を実施されるなど熱心に学生の指導に当たられている。

(9) 八戸工業大学 SNW連絡会と共催 (12回目)

日時 平成30年2月5日(金) 12:30~17:00

場所 八戸工業大学 教養棟

参加者 計52名

学生 32名 (3年生 機械情報技術、電気電子システム、システム
情報工学科各学科)

大学 4名 佐藤学教授ほか

シニア 16名 (SNW東北5名 SNW連絡会11名)

基調講演 「地域経済と原子力産業を考える」

講師 矢野歳和副代表幹事

原子力施設を体感学習として各所を見学していること、さらに青森県の原子力に関する報道についての勉強会を午前中に行った上で対話に臨んでおり、学生の意識も他校より高いと感じられた。対話は共通テーマ「地域経済と原子力産業を考える」のもとに、「地域産業としての原子力」、「地元企業の役割」など6つのテーマに分かれ実施した。

なお、昨年度まではSNW連絡会が全体のアレンジを行ってきたが、今回からはSNW東北にその役目が依頼され、SNW東北の矢野副代表幹事が取りまとめを行った。

(10) 東北学院大学 (9回目)

日時 平成30年2月14日(水) 13:00~17:00

場所 東北学院大学工学部 (多賀城キャンパス) 3号館331教室

参加者 計35名

学生 28名 電気情報工学科3、4年生

大学 石川和己教授

SNW東北 6名

基調講演1 「日常生活の中の放射線」

講師 高橋實幹事

基調講演2 「地球環境とエネルギー問題」

講師 涌沢光春幹事

放射線の講義の中では「ミスターガンマ」を使った放射線計測の実習を行なった。対話は3グループに分かれた。昨年度から対話の時間を従来より長く90分としたが、今回は学生が熱心に対話に参加したのが嬉しかった。このような対話活動が、原子力の再稼働の必要性を冷静に判断するのに役立つとの思いが強まった。

(11) 八戸工業大学 フォローアップ対話会（第1回）

日時 平成30年3月30日（金）14:20～17:00

場所 八戸工業大学メディアセンター会議室

参加者 計7名

学生2名

卒業生1名

大学 1名 佐藤学教授

シニア 3名（SNW東北1名 SNW連絡会2名）

平成27年度から文部科学省が開始した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に対応し、青森県が取り組んでいる「オール青森で取り組む『地方創生人財』育・育成定着事業」の一環として八戸工大が企画した対話会で、「学生と原子力産業で活躍の卒業生と原子力関連産業の専門家との懇談」が行われた。

今年度も2月に実施された学生とシニアの対話会を推進している佐藤教授が企画したもので、学生5、6名と原子力産業で活躍中の卒業生数名とシニア数名を集めた対話会として、地域創生人財の育成に役立てようとの趣旨であるが、学生が春休みの最中で参加者が極端に少なかったのは残念だった。これを教訓に来年度は充実した対話会になることを願う。

(12) 風評被害予防キャンペーン活動

原子力の再稼働に係る風評被害予防（情報提供）を目指して平成29年度は青森アスパム・エネルギー館で主に女性を対象にした講演と対話、および日本原燃の企画で一般市民、特に主婦層を対象とした放射線やエネルギー問題の勉強会である「原燃ECOスクール」に合計8回講師として参加し講演を行った。

・青森アスパム・エネルギー館主催セミナー

日時 平成29年11月23日（木）13:00～14:40

場所 青森県観光物産館アスパム 5階会議室「白鳥」

参加者 計21名

青森市民 16名 主に主婦層

SNW東北 2名

オブザーバー 3名 東日本興業(株)

基調講演 「女性のための放射線基礎知識講座」

講師 矢野歳和副代表幹事

特に女性の初心者を対象として説明した。環境放射線の計測も行い低線量の放射線は問題ないことを実感して頂いた。

・日本原燃主催「原燃ECOスクール」への講師派遣

- ① 5月16日(水) 青森市 安保幹事
- ② 5月17日(木) 弘前市 松野幹事
- ③ 5月18日(木) AM 三沢市 高橋(實)幹事
- ④ 5月18日(木) PM 八戸市 高橋(實)幹事
- ⑤ 11月14日(火) AM 三沢市 栗野幹事
- ⑥ 11月14日(火) PM 八戸市 栗野幹事
- ⑦ 11月15日(水) 弘前市 工藤代表幹事
- ⑧ 11月16日(木) 青森市 山田副代表幹事

3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を実施した。

・第21回会員勉強会(第9回定期総会での記念講演)

日時 平成29年6月9日(木) 16:00~17:30

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 SNW 東北 27名

講演「低線量放射線被ばくの影響—米国原子力学会に於ける議論を中心として」

講師 坂本澄彦氏 東北放射線科学センター理事長

2012年のシカゴにおける米国原子力学会の会長特別セッションで、日本、カナダなど6名の専門家による低線量放射線被ばくの議論があった。これに招待された坂本先生は癌治療に関し、低線量の全身被曝と局所照射を行うと腫瘍細胞の致死効果と治癒率が高まったことを報告したことの紹介があり、福島避難住民の帰還に際し許容線量を1mSv以下としていることは、国際的に見て達成不可能な低すぎる値であるとの見解を示した。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日 (必要に応じて臨時)

- (1) 第83回 平成29年4月22日
- (2) 第84回 平成29年5月22日
- (3) 第85回 平成29年6月19日
- (4) 第86回 平成29年7月18日
- (5) 第87回 平成29年9月25日

- (6) 第 88 回 平成 29 年 10 月 23 日
- (7) 第 89 回 平成 29 年 11 月 20 日
- (8) 第 90 回 平成 29 年 12 月 26 日
- (9) 第 91 回 平成 30 年 1 月 29 日
- (10) 第 92 回 平成 30 年 2 月 26 日
- (11) 第 93 回 平成 30 年 3 月 26 日

5. 「SNW連絡会・エネルギー問題に発言する会」合同運営委員会への参加

原則毎月第 3 木曜日（8 月は休会）

（場所）原子力安全推進協会（JANSI）会議室

情報収集および SNW 連絡会との共催対話活動の円滑化等のため参加し、拡大幹事会で報告した。また必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成 29 年度参加シンポジウム、見学会など

（1）参加シンポジウムなど

・日本原子力学会「2017 年秋の大会」

日時 平成 29 年 9 月 13 日（水）～15 日（金）

場所 北海道大学工学部 札幌市

参加者 計約 40 名

9/14（木）13:00-14:30 矢野副代表幹事は合同セッション：シニアネットワーク連絡会（SNW）セッション（座長：奈良林直（北大）、SNW(石井正則)）に参加した。

基調講演 1 「原子力発電所が二度と過酷事故を起こさないために」

講師 齋藤伸三氏（SNW 連絡会）

基調講演 2 「スーパーエンジニアの育成研修の概要」

講師 奈良林直氏（北大）

・第18回 SNWシンポジウム テーマ「エネルギー政策の展望と福島復興にむけて」

日時： 平成 29 年 10 月 7 日（土）13：00～17：30

場所： 東京大学武田先端知ビル 5 階ホール

出席者： 約 150 名 SNW 東北から阿部勝憲、矢野歳和

主催： 日本原子力学会シニアネットワーク連絡会（SNW）

後援： 日本原子力産業会議、日本原子力文化振興財団、原子力国民会議

基調講演 1 「エネルギー長期見通しと原子力の課題；国民を幸せにするエネ

ルギー政策」

講師 山本隆三氏 常葉大学経営学部教授

基調講演 2 「福島再生、復興に向けて」

講師 須藤治氏 原子力災害現地対策本部、副本部長

パネル討論 「福島復興、再生に向けて」

3人のパネリストが最初に意見を述べ、それに対してモデレータの河田東海夫氏が質問とコメントを行い、その後議論を深める方向で実施した。

・東北大学流体科学研究所 第4回公開講座 「今、エネルギーを考える」

主催 東北大学流体科学研究所

日時 平成 29 年 12 月 9 日（土）13:00～16:15

場所 東北大学片平キャンパス 流体力学研究所 2 号館 5 階大会議室

参加者 約 90 名

講演 1 「福島第一原子力発電所の現状について」

講師 高倉吉久氏 東北放射線科学センター理事

講演 2 「中国の原子力発電動向と我が国のエネルギーの将来について」

講師 渡辺揺氏

SNW東北から10名参加、2名は受付を担当し協力した。

・平成 28 年度地層処分事業に関する学習の機会提供事業・交流会

日時 平成 30 年 2 月 17 日（土）

場所 東京都 AP 浜松町 会議室

主催 日本原子力文化財団

出席者 山田副代表幹事

事業計画の説明会と意見交換会に参加。NUMO から公表された「科学的特性マップについて」の決定根拠の説明があった。

(1) 見学会について

・東北電力研究開発センター 水素製造システム見学

日時 平成 29 年 9 月 14 日（木）

参加者 SNW 東北 8 名

この実験システムは、水素を介して再生可能エネルギーの出力変動・電圧変動を抑制することを目的に研究を行っている。

・女川原子力発電所見学

日時 平成 29 年 10 月 20 日（金）

参加者 SNW 東北 12 名

再稼働に向け対策工事を実施中の現場の状況を確認するために計画した。バスで発電所に向かい、PR センター発電所の現状を聞く。ここで昼食後、構内バスに乗り換え、防潮堤、高台に追加した発電設備、予備の貯水槽などの新基準対応で新設した設備を見た後、3号機建屋の内部を見学した。

・幌延深層地研究センター訪問

日時 平成 29 年 11 月 1～2 日

視察先 北海道 幌延深層地研究センター

参加者 計 6 名

学生 4 名および石川和己教授 東北学院大学電気情報工学科

SNW 東北 工藤代表幹事

日本原子力文化財団が費用を全額負担して募集する地層処分事業に関する学習の機会提供事業に応募し、採用され実現したものの。

7. SNW東北のホームページの維持・管理・更新

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ : <http://www.snwtohoku.jp>)

平成 29 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	学生数	SNW 東北と SNW(東京)の参加者	備考
6/21(水)	*長岡技術科学大学	13 名	SNW 東北 4 名 (馬場、工藤、矢野、阿部) SNW (東京) 4 名	7 回目
11/14(火)	*宮城教育大学	13 名	SNW 東北 4 名 (工藤、阿部、高橋、 矢野) SNW(東京) 3 名	1 回目
11/22(水)	青森大学	29 名	SNW 東北 6 名 (清野、工藤、阿部、矢野、 涌沢、松野)	8 回目
12/4(月)	*山形大学工学部	37 名	SNW 東北 6 名 (工藤、安保、阿部、岸、 栗野、山田) SNW (東京) 6 名	4 回目
12/12(火)	*東北大学	28 名	SNW 東北 6 名 (安保、工藤、岸、高橋、 涌沢、栗野) SNW (東京) 6 名	12 回目
12/15(金)	宮城学院女子大学	22 名	SNW 東北 6 名 (水原、高橋、栗野、矢野、 岸、松野)	8 回目
1/11(木)	*福島高専	36 名	SNW 東北 6 名 (阿部、工藤、山田、涌沢、 栗野、矢野) SNW (東京) 6 名	3 回目
2/5(月)	*八戸工業大学	32 名	SNW 東北 5 名 (工藤、阿部、矢野、栗野、 松野) SNW(東京)11 名	12 回目
2/14(水)	東北学院大学	28 名	SNW 東北 6 名 (工藤、岸、高橋、水原、 矢野、涌沢)	9 回目
3/30(金)	*八戸工業大学 フォローアップ対話会	2 名	SNW 東北 1 名 (岸) SNW (東京) 2 名 八戸工大卒業生 1 名	1 回目

*はSNW連絡会と共催

参加学生 240 名 SNW東北会員延べ 50 名

シニアネットワーク東北

平成28年度活動報告書

平成29年6月8日

平成 28 年度活動報告書について

シニアネットワーク東北

代表幹事 工藤昭雄

「平成 28 年度の学生との対話活動」は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来 6 年を経過してなお、脱原発、卒原発の声がある中、シニアネットワーク東北は「原子力発電の啓蒙、普及を図る」と言う本来の目的に沿って計画通り、長岡科学技術大学（6 月）、青森大学（11 月）、山形大学（12 月）、東北大学（12 月）、福島高専（1 月）、宮城学院女子大学（1 月）、仙台高専（1 月）、八戸工業大学（2 月）、東北学院大学（2 月）の 9 校で実施することができた。今年度からは東北電力から提供して頂いた教育用の放射線計測器「ミスターガンマ」8 台を対話活動に導入し、測定を通して身近な放射線を実感出来るよう活用している。

対話集会は[地球環境とエネルギー問題]、[放射線と放射能]などのテーマで基調講演を行った後、学生 4～8 名のグループにシニア 2 名が加わり基調講演のテーマに基づき 1～2 時間の対話を行うパターンが定着してきた。しかし、東北大学のように学生側の希望で基調講演なしに対話だけを目的としたやり方も試行され、より実のある対話活動が模索されている。

対話の内容は「原子力発電は必要か」と「放射能・放射線に対する安全基準はどうなっているのか」ということが中心になっていたが、マスコミの脱原発の論調に流されず、原子力発電の必要性が正しく認識されてきている事が、対話を通して実感されるようになった。

原子力発電の再稼働について地元の合意形成のため、また社会問題になっている「風評被害」や学校での「いじめ」問題予防のため、放射能・放射線に対する理解浸透を図る必要があり、日本原燃のエコ教室への講師派遣や一部営業所でのセミナーも開催した。

一方、原子力技術の伝承を目的に、平成 19 年度以降毎年、東北電力の原子力部門新入社員教育に参画している。

ここにこれらの活動の概要を纏めて報告します。

シニアネットワーク東北 平成28年度活動報告

1. 第8回定期総会

日時 平成28年6月9日(木) 15:00~15:50

場所 東北エネルギー懇談会会議室

- ・平成27年度の活動報告、会計報告が承認され、平成28年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。

記念講演 (第20回勉強会参照)

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成28年5月26日(木) 10:00~17:20

場所 仙台市 東北電力本店ビル1A会議室

参加者 SNW東北:5名、SNW連絡会:5名、新入社員:39名と対話。

基調講演 SNW東北副代表幹事 矢野歳和氏

「放射線とエネルギー問題」と題して我が国のエネルギー問題と原子力の役割等について講演した。

対話 基調講演の後、5グループに分かれて新入社員と対話し、対話後受講生が1分間スピーチを行った。

(2) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催(5回目)

日時 平成28年6月22日(水) 13:00~16:30

場所 長岡技術科学大学 原子力システム安全棟

参加者 合計23名

長岡技術科学大学 大塚雄市准教授

長岡技術科学大学大学院生 14名

SNW東北:4名 SNW連絡会:4名

基調講演 「原子力の問題を考える」と題してSNW東北の阿部勝憲氏が講演

今回で5回目となる対話会が開催され学生14名、シニア8名が参加した。30分の基調講演の後、参加者全員が4グループに分かれ、約1時間半にわたり予め設定されたグループごとの対話テーマに焦点を当てた対話を実施した。対話後に全員が集合して、グループごとの発表と質疑応答が活発に行われた。この対話は同学におけるリスクコミュニケーションの実践課程の一環として実施されている。

(3) 青森大学 (7回目)

日時 平成28年11月16日(水) 14:40~17:30

場所 青森大学 6号棟

参加者 学生:ソフトウェア情報学部、経営学部、社会学部学生1~4年生 計35名

教官:ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授

SNW東北 6名

基調講演1 涌沢光春幹事 「地球環境とエネルギー」

1枚のレジメと説明用の冊子「暮らしの中のエネルギー」を用いて、口頭で、石油危機、S+3Eのキーワードで解説した。

基調講演2 高橋 實幹事 「放射線と放射能」

持参した放射線計測器「ミスターガンマ」8台を使用して放射線計測の実習を行った後、パワーポイントを使って放射線は身の回りにありふれていること、問題はその量であることなど説明した。

基調講演の後、3グループに分かれて約1時間の対話を行った。

(4) 山形大学 SNW連絡会と共催 (6回目)

日時 平成28年12月5日(月) 13:00~17:00

場所 山形大学工学部(米沢市城南4-3-16)

ものづくりセンターA 2F 創成支援室

参加者 教官:大学院理工学研究科 東山禎夫教授、杉本俊之准教授

学生:電気・電子工学専攻 3年生41名

シニア:SNW東北:6名、SNW連絡会:6名

基調講演

講師 大塔容弘氏 SNW連絡会

演題 「5年が経過した福島原発の現状と今後」

山形大学工学部でSNWとの対話会を行うのは昨年に続き3回目で、電気電子工学3年生の「電力工学」を受講した学生に対して授業の一環として行っている。

基調講演の後4班に分かれ、各班数名の学生とシニア2人が学生から出された質問を話題に対話した。

(5) 東北大学工学部 SNW連絡会との共催 (11回目)

日時 平成28年12月21日(水) 13:00~17:45

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学専攻

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 M1, B4 計 33 名

教官： 長谷川教授、新堀教授、千田助教

シニア： SNW東北：6名、SNW連絡会：5名

オブザーバ： 日本原燃 田中治邦氏、日本電気工業会 多田信雄氏

今回で 11 回目となる東北大学での対話会の今回の最大の特徴は、昨年度から大学側の要望で対話時間を最大限確保することで計画したこと。

今回も昨年同様基調講演なしで、事前質問を受けた上で、対話に約 3 時間割り当てた。テーブルを 4 つに分け、シニアは下記テーマおよび共通テーマ（学生に求められる能力とは何か）を担当した。

A グループ：原子力の将来

B グループ：次世代炉・高速増殖炉・核融合

C グループ：放射性廃棄物の処分

D グループ：福島第一の廃止措置

参加学生も 4 Gr 構成で、各 Gr は共通テーマと上記 4 テーマのうち 2 つのテーマを選択し対話を行った。

対話終了後、学生各 Gr が共通テーマおよび選択 2 テーマにつき纏めの発表を行った。今回も質の高い対話ができ、シニア側にとっても有意義であった。

(6) 福島工業高等専門学校 SNW 連絡会と共催 (2 回目)

日時 平成 29 年 1 月 12 日 (木) 13:00~17:30

場所 福島工業高等専門学校本館 (いわき市平上荒川字長尾 3 0)

参加者 教官：鈴木茂和准教授、
学生：計 50 名 (各学科 1~5 年生)

シニア：SNW東北 5 名、SNW連絡会 6 名

基調講演 講師 針山日出夫氏 SNW連絡会幹事

演題 「軽水炉の高経年化対策と廃炉措置」

基調講演の後 5 班に分かれ、各班数名の学生とシニアが学生から出された質問を話題に対話した。

今回は昨年と比べ参加人数も増え、特にコミュニケーション情報学科も初めて参加し、女子学生が多かったのも特徴である。

(7) 宮城学院女子大学 ミニ講義 (6 回目)

日時 平成 29 年 1 月 20 日 (金) 10:30~12:45

場所 宮城学院女子大学学芸学部 生活文化デザイン学科

参加者 本間教授ほか、3 年生 16 名

SNW東北 6 名

ミニ講義「放射線の基礎」 講師：松野秀男幹事 30 分

ミニ講義のあと、3 グループに分かれて放射線計測器を使った環境放射線の計測

実習と対話を行った。特に放射線の計測実習をしたのち対話に入ったことで、話にも興味を持てたものと思う。

(8) 仙台高等専門学校 (7回目)

日時 平成29年1月26日(木) 12:50~15:50

場所 仙台高等専門学校名取キャンパス 専攻科棟2F教室他

参加者 内海康雄副校長・教授 専攻科学生:6名、事務局:1名
SNW東北:4名

基調講演1. 涌沢光春幹事 「エネルギーと環境」

基調講演2. 高橋 實幹事 「日常生活の中の放射線」

基調講演と「ミスターガンマ」を使用した放射線の測定実習を行った。
講演と実習の後、原子力や環境問題について対話を行った。

(9) 八戸工業大学 SNW連絡会と共催 (11回目)

日時 平成29年2月3日(金) 13:00~17:00

場所 八戸工業大学 メディアセンター1階メディアホール

参加者 八戸工大学生 43名(機械情報技術、電気電子システム、システム情報、
バイオ環境工学・・・各学科の3年生)
教職員 4名、SNW東北 6名、SNW連絡会 6名

基調講演 大塔容弘氏 SNW連絡会

演題 「地域経済と原子力産業を考える」

基調講演はわが国の原子力開発の歴史、原子力事業の六ヶ所村立地の経緯と現状という内容であった。その後グループに分かれ、学生が提起した原子力産業の立地のメリットと問題点を中心にSNWのメンバーと活発に対話を行った。参加学生は理系であるが、原子力産業が地域経済に与える影響について理解を深め、学生にとって技術と社会の関係性を学ぶ良い機会となった。

(10) 東北学院大学 (8回目)

日時 平成29年2月14日(火) 13:00~17:00

場所 東北学院大学工学部(多賀城キャンパス)3号館331教室

参加者 学生:電気情報工学科3年生(佐藤・石川研究室)19名
教官:石川和己教授
SNW東北 6名

基調講演1 高橋 實幹事 「日常生活の中の放射線」

基調講演 2 栗野量一郎幹事 「地球環境とエネルギー問題」

今回は基調講演に続いて「ミスターガンマ」を使った放射線計測の実習をしてもらった後、3グループに分かれて対話を行った。対話の時間を従来より長い90分としたのでより充実した対話ができる。

(11) 風評被害予防キャンペーン活動

原子力の再稼働に係る風評被害予防（情報提供）を目指して平成28年度は東北電力栗原登米営業所の検針員や所員を対象とした勉強会、青森アスパム・エネルギー館で主に女性を対象にした講演と対話、および日本原燃の企画であるが一般市民、特に主婦層を対象とした放射線やエネルギー問題の勉強会である「原燃ECOスクール」に合計8回講師として参加し講演を行った。

・東北電力栗原登米営業所での講演

日時 平成28年5月31日（火）11:00～12:00

場所 東北電力栗原登米営業所

参加者 営業所検針員 約20名、営業所員 角田所長ほか約10名
SNW東北 山田副代表幹事（講演）、高橋（實）幹事

演題 放射線の基礎 一身の回りの放射線—
検針員の打ち合わせの時間の一部を使った講演で、資料に基づき放射線の基礎、影響、身の回りの放射線、食品関係、放射線の利用などについて分かり易く説明した。

・青森アスパム・エネルギー館主催セミナー

日時 平成28年11月23日（水）13:00～14:40

場所 青森県観光物産館アスパム 5階会議室「白鳥」

参加者 青森市民（主に主婦層16名）、SNW東北 3名、オブザーバ（東日本興業3名）

基調講演 矢野歳和副代表幹事 「女性のための放射線基礎知識講座」

初心者を対象とする。講座名称は前回「お母さんの放射線基礎知識」から「女性のための放射線基礎知識講座」へ対象範囲を拡大した。

・日本原燃主催「原燃ECOスクール」への講師派遣

- ① 5月17日（火） 弘前市 矢野副代表幹事
- ② 5月18日（水） 青森市 工藤代表幹事
- ③ 5月19日（木） 青森市 工藤代表幹事
- ④ 5月20日（金） 八戸市 山田副代表幹事

- ⑤ 10月17日(月) 青森市 山田副代表幹事
- ⑥ 10月18日(火) 青森市 山田副代表幹事
- ⑦ 10月19日(水) 弘前市 工藤代表幹事
- ⑧ 10月20日(木) 八戸市 松野幹事、安保会員

3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を実施した。

(1) 第20回会員勉強会(第8回定期総会での記念講演)

日時 平成28年6月9日(木) 16:00~17:30

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 25名

講師 元NUMO理事、元核燃料サイクル開発機構理事 河田東海夫氏

演題 「我が国の核燃料サイクルの歴史的経緯と今後の課題」

原子力開発の黎明期からの歴史から始まり、その後数度の浮沈を繰り返し現在に至っている事、そして今後の課題についてわかりやすく説明して頂き、充実した90分となった。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日 (必要に応じて臨時)

- (1) 第72回 平成28年4月18日
- (2) 第73回 平成28年5月23日
- (3) 第74回 平成28年6月20日
- (4) 第75回 平成28年7月19日
- (5) 第76回 平成28年9月20日
- (6) 第77回 平成28年10月25日
- (7) 第78回 平成28年11月28日
- (8) 第79回 平成28年12月19日
- (9) 第80回 平成29年1月30日
- (10) 第81回 平成29年2月27日
- (11) 第82回 平成29年3月27日

5. 「SNW連絡会・エネルギー問題に発言する会」合同運営委員会への参加

原則毎月第3木曜日(8月は休会)

(場所) 原子力安全推進協会(JANSI)会議室

情報収集およびSNW連絡会との共催対話活動の円滑化等のため参加し、拡大幹事会で報告、必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成 28 年度参加シンポジウム、見学会など

(1) 参加シンポジウムなど

・「エネルギー講演会」

日時 平成 28 年 7 月 22 日（金）13：00～16：00、

主催 東北エネルギー懇談会

場所 ウェステインホテル仙台 2 階（竹）

講演 1 「本義」を見失わなかった男たち～極限にたつ日本人の底力～

講師 門田隆将氏（ジャーナリスト・ノンフィクション作家）

講演 2 「豊かさと安全とエネルギー」

講師 大宅映子氏（評論家・大宅壮一文庫理事長）

参加者 約 300 人（SNW 東北 8 人）

・第17回 SNW シンポジウム テーマ「エネルギーは我が国の生命線/このままで大丈夫か」

主催 （社）日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

日時 平成 28 年 10 月 15 日（土）13：00～17：30

場所： 東京工業大学デジタル多目的ホール（大岡山キャンパス西 9 号館）

出席者： 約150名 SNW東北から 阿部勝憲、矢野歳和

基調講演 1 「原子力の正しい進ませ方と止めさせ方」 石川和男氏（NPO 社会保障
経済研究所代表）

基調講演 2 「原子力の安全性はどこまで向上したか」 諸葛宗男氏（元東京大学特
任教授）

パネル討論 その後5人によるパネル討論で原子力の必要性を論じた。

・「エネルギー講演会」

日時 平成 28 年 10 月 27 日（木）15：30～17：00、

主催 東北エネルギー懇談会

場所 ウェステインホテル仙台 2 階（竹）

講演 「地球温暖化対策に向けた取り組みについて」

講師 東京大学公共政策大学院客員教授 本部 和彦氏

参加者 約 300 人（SNW 東北 10 人）

・原子力国民会議 原子力集約全国大会

日時 平成 28 年 12 月 1 日（木）

主催 一般社団法人原子力国民会議、エネルギーと経済・環境を考える会
場所 東京サンケイプラザホール
参加者 約 650 名 (SNW東北 工藤代表幹事)
講演 “もんじゅの使命と今後の展望” 岡本孝司 (東大教授)

・東北大学流体科学研究所 第3回公開講座 「今、エネルギーを考える」

主催 東北大学流体科学研究所
日時 平成 29 年 2 月 4 日 (土) 13:00~16:15
場所 東北大学片平キャンパス 流体力学研究所 2 号館 5 階大会議室
講演 1 「安全規制は事故から何を学んだのか」
講師/東北大学特任教授 平岡英治氏
講演 2 「福島事故後の放射線による健康影響について」
講師/東北放射線科学センター理事 宍戸文男氏 (福島県立医大名誉教授)
参加者 約90名 SNW東北から10名参加。 2名は受付を担当し協力

・平成 28 年度・地層処分事業に関する学習の機会提供事業・交流会

日時 平成 29 年 2 月 18 日 (土)
場所 東京都 AP 浜松町 会議室
主催 日本原子力文化財団
出席者 山田副代表幹事
事業計画の説明会と意見交換会に参加

・原子力学会春の年会 企画セッション：シニアネットワーク・セッション (一般公開)

日時 平成 29 年 3 月 29 日 (水) 13:00~14:30
場所 東海大学湘南キャンパス (神奈川県平塚市) 16 号館 206 号室
参加者 約 20 名 ほとんど SNW メンバーで学生は少数 SNW 東北から阿部幹事
「対話 10 年の報告と新しい方式について」と題した企画セッション
座長は早野睦彦氏、講演は 3 件 (各 20 分)、フロアとの意見交換 (20 分)

・平成 28 年度第 4 回原環センター講演会

「スウェーデンとカナダにおける地層処分事業の社会的側面の取り組み」
講演者 講演者：原子力環境整備促進・資金管理センター 佐原 聡氏
日時 平成 29 年 3 月 28 日 (火)
場所 東京都 日本交通協会 大会議室
主催 原子力環境整備促進・資金管理センター

参加者 山田副代表幹事

・エネルギー戦略研究会(EEE会議)第 233 回研究会

「我が国のエネルギー問題の現状」

講演者 関西電力 顧問(元社長) 藤 洋作氏

日時 平成 29 年 3 月 28 日(火)

場所 新虎ノ門倶楽部(外務省OB専用施設、東京都港区虎ノ門 晩翠ビルB1)

主催 エネルギー戦略研究会(EEE会議)

参加者 山田副代表幹事

(2) 見学会について

・青森原子力施設見学会

日時 平成 28 年 10 月 12～13 日

参加者 SNW 東北会員 8 名

視察先

- ・量子科学技術研究開発機構 核融合エネルギー開発部門六ヶ所核融合研究所
- ・日本原燃株式会社
- ・環境科学技術研究所
- ・東北電力東通原子力発電所

対話活動に資するため今回初めて県外の見学会を行った。

・幌延深地層研究センター訪問

日時 平成 28 年 12 月 7～8 日

参加者 山田副代表幹事(他に石巻専修大学の教授と学生 3 名、東北大学の学生 3 名の計 8 名)

視察先 幌延深地層研究センター

この視察は日本原子力文化財団が旅費を全額支給してくれたもので、山田副代表幹事が「若者と地層処分を学ぶ会(東北)」という団体として企画・応募し、認められたもの。参加者の多くは若い世代で、地層処分の実情を見学し深く理解した。

7. SNW東北のホームページの維持・管理・更新

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を

把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ：<http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 28 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	学生数	SNW 東北と SNW(東京)の参加者	備考
6/22 (水)	*長岡技術科学大学	14 名	SNW 東北 4 名 (馬場、工藤、矢野、阿部) SNW (東京) 4 名	5 回目
11/16(水)	青森大学	35 名	SNW 東北 6 名 (清野、工藤、矢野、高橋實、涌沢、栗野)	7 回目
12/5(月)	*山形大学工学部	41 名	SNW 東北 6 名 (工藤、矢野、阿部、岸、栗野、山田) SNW (東京) 6 名	3 回目
12/21(水)	*東北大学	41 名	SNW 東北 6 名 (阿部、工藤、岸、高橋實、矢野、栗野) SNW (東京) 5 名	11 回目
1/12(木)	*福島高専	50 名	SNW 東北 5 名 (阿部、工藤、山田、涌沢、栗野) SNW (東京) 6 名	2 回目
12/20(金)	宮城学院女子大学	16 名	SNW 東北 6 名 (松野、高橋實、矢野、安保、栗野、岸)	6 回目
1/26(木)	仙台高専	6 名	SNW 東北 4 名 (工藤、水原、涌沢、高橋實)	7 回目
2/3(金)	*八戸工業大学	43 名	SNW 東北 6 名 (工藤、阿部、岸、矢野、栗野、安保) SNW(東京)6 名	11 回目
2/14 (火)	東北学院大学	19 名	SNW 東北 6 名 (工藤、阿部、岸、高橋實、水原、栗野)	8 回目

*はSNW連絡会と共催

参加学生 265 名 SNW東北会員延べ 49 名

以上

シニアネットワーク東北

平成27年度活動報告書

平成28年6月9日

平成 27 年度活動報告書について

シニアネットワーク東北

代表幹事代行 工藤昭雄

「平成 27 年度の学生との対話活動」は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来 5 年を経過してなお、脱原発、卒原発の声がある中、シニアネットワーク東北は「原子力発電の啓蒙、普及を図る」と言う本来の目的に沿って計画通り、長岡科学技術大学（6 月）、青森大学（10 月）、山形大学（11 月）、仙台高専（12 月）、宮城学院女子大学（12 月）、福島高専（12 月）、東北大学（平成 28 年 1 月）、八戸工業大学（2 月）、東北学院大学（2 月）の 9 校で実施することができた。前年度実施できなかった宮城学院女子大学と東北学院大学についても熱心に働きかけた成果で再開できた。

対話集会は[地球環境とエネルギー問題]、[放射線と放射能]などのテーマで基調講演を行った後、学生 4～8 名のグループにシニア 2 名が加わり基調講演のテーマに基づき 1～2 時間の対話を行うパターンが定着してきた。しかし、東北大学のように学生側の希望で基調講演なしに対話だけを目的としたやり方も試行され、より実のある対話活動が模索されている。

対話の内容は「原子力発電は必要か」と「放射能・放射線に対する安全基準はどうなっているのか」ということが中心になっていたが、対話の中でマスコミの脱原発の論調に対して原子力発電は必要であるとの認識は持ってくれたようだ。この点に関してはここ数年変わっていない。

また、昨年度から始めた主に女性社員を対象にした「放射線と放射能」に関する勉強会も一部継続し、我々シニアとの対話を行い風評被害を避けるため放射線に関する正しい知識の普及に努めた。

ここにこれらの活動の概要を纏めて報告します。

シニアネットワーク東北 平成27年度活動報告

1. 第7回定期総会

日時 平成27年6月4日(木) 15:00~15:50

場所 東北エネルギー懇談会会議室

- ・平成26年度の活動報告、会計報告が承認され、平成27年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。
- ・代表幹事および幹事ならびに監事について原案に加え阿部勝憲氏の幹事選出について提案があり承認された。

記念講演 (第19回勉強会参照)

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成27年5月28日(木) 10:00~17:20

場所 仙台市 花京院1丁目 TKP カンファレンスセンター4A

参加者 SNW東北:4名、SNW連絡会:4名、新入社員:25名と対話。

基調講演 SNW連絡会幹事 元三菱重工業取締役 針山日出夫氏

「日本が抱えるエネルギー問題と日本社会を考える」と題して、東電福島原発事故がもたらしたものの、原子力の受容性、科学のリスクと便益、エネルギー問題の論点と選択等について講演した。

対話 基調講演の後、4グループに分かれて新入社員と対話し、対話後受講生が1分間スピーチを行った。

(2) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催(5回目)

日時 平成27年6月17日(水) 13:00~16:30

場所 長岡技術科学大学 原子力システム安全棟

参加者 長岡技術科学大学 大塚雄市准教授

長岡技術科学大学大学院生 45名

SNW東北:5名 SNW連絡会:6名

基調講演 「将来のエネルギーを担う原子力」

(講師:SNW東北 矢野歳和副代表幹事)

今回で5回目となる対話会が開催され学生45名、シニア11名が参加した。30分の基調講演の後、参加者全員が6グループに分かれ、約3時間にわたり予め

設定されたグループごとの対話テーマに焦点を当てた対話を実施した。学生たちは与えられたテーマについて事前に情報を収集の上、問題点の整理や質問事項を準備して対話に臨んだ。対話後に全員が集合して、グループごとの発表と質疑応答が活発に行われた。この対話は同学におけるリスクコミュニケーションの実践課程の一環として実施されている。

(3) 青森大学 (6回目)

日時 平成27年11月11日(水) 14:45~17:30

場所 青森大学 633教室

参加者 学生：ソフトウェア情報学部、経営学部3~4年生20名

教授：ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授他

SNW東北 6名

基調講演1 矢野歳和副代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演2 工藤昭雄代表幹事代行 「放射線と放射能」

SNW東北の青森大学における対話集会は6回目である。

最初に教室で「地球環境とエネルギー問題」、「放射線と放射能」について、各30分の基調講演が行われた。その後、各学生5~7名とSNW東北2名との3グループに分かれて約1時間グループ対話を行った。

対話の後、再び教室に集まり、各グループ代表者から対話内容の説明があった。その間、講演、グループ対話についてのアンケートも実施した。最後に、SNW東北からグループ対話の講評を行い、日程を終了した。

(4) 山形大学 SNW連絡会と共催 (5回目)

日時 平成27年12月7日(月) 13:00~17:00

場所 山形大学工学部(米沢市城南4-3-16)
100周年記念館セミナー室

参加者 大学側 大学院理工学研究科 東山禎夫教授、杉本俊之准教授

学生 電気・電子工学専攻 3年生37名、4年生1名

シニア SNW東北:7名、SNW連絡会:6名

基調講演

講師 坪谷隆夫 SNW連絡会副会長

演題 「高レベル廃棄物の処理処分」

山形大学工学部でSNWとの対話会を行うのは昨年に続き2回目で、電気電子工学3年生の「電力工学」を受講した学生に対して授業の一環として行っている。

基調講演の後6班に分かれ、各班数名の学生とシニア2人が学生から出された質問を話題に対話した。

(5) 仙台高等専門学校 (6回目)

日時 平成27年12月10日(木) 13:35~16:30

場所 仙台高等専門学校名取キャンパス 専攻科棟2F教室他

参加者 仙台高専 吉野教授 専攻科学生:3名、事務局、聴講:4名
SNW東北:4名

基調講演1. 矢野歳和副代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演2. 工藤昭雄代表幹事代行 「放射線の基礎」

各30分間の基調講演2件の後、「ベーターちゃん、サーベイメータ」を使用し、キャンパス内の任意の場所で計測実習が行い、計測地点により線量率が異なることを実感できた。

(6) 福島高等専門学校 (初回)

日時 平成27年12月12日(土) 13:45~17:30

場所 福島高専本館第4ゼミ室(いわき市平上荒川字長尾30)

参加者 教員:鈴木和雄准教授、他に佐藤正知教授、實川資朗教授、大山博史教授(広島高専)が一部参加

学生:計9名(産業技術システム工学専攻1年1名、機械工学科5年5名、建築環境工学科1名、機械工学科4年2名)

一般社会人:1名

シニア:SNW東北 3名、SNW連絡会 5名

基調講演 講師 若杉和彦 SNW連絡会幹事

演題 「日本のエネルギー問題と原子力の役割」

基調講演のあと、2グループに分かれて対話した。

今回は福島高専で初めての対話会であり、開催が土曜日であったこと、また当日同校で文科省の廃止措置研究・人材育成事業のキックオフミーティングが開催された経緯もあり、参加学生の数が少なかった。

しかし、世話役の鈴木先生から来年も開催して欲しいとの話があり、一定の

成果が上がったと考えられる。参加した学生は皆さん熱心で、卒業後地元で原発の廃炉事業に就きたいと希望している学生も多かった。

(7) 宮城学院女子大学 ミニ講義 (5回目)

日時 平成27年12月15日(火) 14:10~15:30(80分)

場所 宮城学院女子大学学芸学部 生活文化デザイン学科
第2家政館L101 実験室

参加者 本間教授+3年生8名(当初は3年生13名+4年生数名の予定であった)
SNW東北 4名

「再生可能エネルギーと原子力」ミニ講義 矢野 30分 14:10~14:40

事前の質問が8件あった。ミニ講義のパワーポイントの中に取り入れる形で、ミニ講義全体の中の一部として記入し説明した。

ミニ講義のあと、東北エネルギー懇談会から借用したガンマ線用シンチレーション計測器1台およびベータ線計測器「ベータちゃん」4台を使って放射線計測の実習を行い、自然放射能の理解を深めてもらった。

(8) 東北大学工学部 SNW連絡会との共催 (10回目)

日時 平成28年1月22日(金) 13:00~17:45

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学科

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 M1, B4 計28名

教官 石井教授、長谷川教授、遊佐准教授

シニア SNW東北:5名、SNW連絡会:5名

オブザーバ 日本原子力産業協会(JAIF) 村井

今回で10回目となる東北大学での対話会の今回の最大の特徴は、大学側の要望で対話時間を最大限確保することで計画したこと。

今回も昨年同様基調講演なしで、事前質問を受けた上で、対話に約3時間割り当てた。テーブルを4つに分け、シニアは下記テーマおよび共通テーマ(学生に求められる能力とは何か)を担当した。

テーブル1 (原子力の将来)

テーブル2 (原子力の社会的受容性について)

テーブル3 (原子炉廃止措置と廃棄物の処理・処分)

テーブル4 (核融合炉を含む次世代炉について)

参加学生も4Gr構成で、各Grは共通テーマと上記4テーマのうち2つのテーマを選択し対話を行った。

対話終了後、学生各 Gr が共通テーマおよび選択 2 テーマにつき纏めの発表を行った。今回も質の高い対話ができ、シニア側にとっても有意義であった。

(9) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (11 回目)

日時 平成 28 年 2 月 5 日 (金) 10:00~17:30 (シニアは 12 時から)

場所 八戸工業大学 メディアセンター大会議室

参加者 八戸工大学生 24 名 (機械情報技術、電気電子システム、システム情報、
バイオ環境工学・・・各専攻学科の 3 年生)

教職員 5 名、 SNW東北 5 名、 SNW連絡会 5 名

基調講演 坪谷隆夫 SNW連絡会副会長

演題 「学生諸君と高レベル放射性廃棄物処分を考える！」

今回で11回となる対話会では、企画準備段階から懇親会まで入念な準備調整と
いつも乍らの温かい気遣いを感じさせてくれた。対話に先立ち、昼食に学生とせん
べい汁を食しながら互いが打ち解け、その流れをグループ対話に繋ぐことで本音ベ
ースの活発で深みのある対話が実現している。対話後の学生諸君の発表内容は一連
の原子力体験学習カリキュラムの蓄積で、エネルギー問題に対する論点整理が出来
上がっており、それを下敷きにしてポイントを外さないものだった。

(10) 東北学院大学 (7 回目)

日時 平成 28 年 2 月 16 日 (火) 11:30~16:30

場所 東北学院大学工学部 (多賀城キャンパス) 3 号館 301 教室

参加者 学生：電気情報工学科 3 年生 (佐藤・石川研究室) 18 名

教授：石川和己教授

SNW東北 6 名

基調講演 1 岸 昭正副代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演 2 工藤昭雄代表幹事代行 「放射線の基礎」

昨年度は大学の都合で実施出来なかったため 2 年ぶりの対話会だが今回で 7 回目
となる。石川先生の好意により、研究室の学生を対象に例年どおりの対話を実施
することが出来た。基調講演のあと 6 名ずつ 3 グループに分かれた学生とシニア
が対話した。今回はテーマを事前には設定せず、基調講演の内容を踏まえ自由に
対話を展開した。当初予定は 50 分であったが、足りないため 15 分延長しての対
話となった。また対話後各グループ纏めの発表を行った。

(11) 風評被害予防キャンペーン活動

原子力の再稼働に係る風評被害予防（情報提供）を目指して平成27年度は東北電力（株）の宮城支店電友会および青森アスパム・エネルギー館で主に女性を対象に講演と対話を行った。

・東北電力（株）宮城支店電友会

日時 平成27年8月20日（木）10:30～12:00

場所 東北電力（株）宮城支店 5F会議室（SS30ビル）

参加者 電友会20名、SNW東北 7名

基調講演 SNW東北 矢野歳和副代表幹事

演題 「低放射線被ばくの影響と原子力」

30分の基調講演のあと、45分ほど3グループに分かれて対話した。

・青森アスパム・エネルギー館でのセミナー

日時 平成28年2月25日（木）

場所 青森アスパム・エネルギー館

参加者 青森市民（主に主婦層）、SNW東北 3名

基調講演 矢野歳和副代表幹事 「放射線の基礎」

今回が初回で今後定期的実施予定のセミナーで、主催は青森アスパム・エネルギー館

3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を実施した。

(1) 第19回会員勉強会（第7回定期総会での記念講演）

日時 平成27年6月4日（木）16:00～17:30

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 25名

講師 SNW連絡会副会長 坪谷隆夫様

演題 「放射性高レベル廃棄物最終処分の動向と技術開発の動向」

原子力発電の推進に反対する側の大きな理由の一つになっている高レベル廃棄物の最終処分に長年取り組んで来られた坪谷様から、この問題の動向について詳しい説明があり、質疑応答があった。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日（必要に応じて臨時）

- (1) 第 61 回 平成 27 年 4 月 20 日
- (2) 第 62 回 平成 27 年 5 月 12 日
- (3) 第 63 回 平成 27 年 6 月 22 日
- (4) 第 64 回 平成 27 年 7 月 21 日
- (5) 第 65 回 平成 27 年 9 月 24 日
- (6) 第 66 回 平成 27 年 10 月 26 日
- (7) 第 67 回 平成 27 年 11 月 16 日
- (8) 第 68 回 平成 27 年 12 月 21 日
- (9) 第 69 回 平成 28 年 1 月 25 日
- (10) 第 70 回 平成 28 年 2 月 22 日
- (11) 第 71 回 平成 28 年 3 月 23 日

5. 「SNW連絡会運営小委員会」および「エネルギー問題に発言する会運営委員会」参加
原則毎月第3木曜日（8月は休会）

（場所）原子力安全推進協会（JANSI）会議室

情報収集およびSNW連絡会との共催対話活動の円滑化等のため参加し、拡大幹事会で報告、必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成 27 年度参加シンポジウム、講師派遣、見学会など

(1) 参加シンポジウムなど

・「原子力国民会議第3回東京中央集会」テーマ：原子力の誤解を考える

日時 平成 27 年 9 月 29 日（火）

主催 一般社団法人原子力国民会議、エネルギーと経済・環境を考える会

共催 KAKKIN、日本電機工業会

後援 日本原子力学会、他

場所 メルパルクホール（東京都港区芝公園）

参加者 第1部：約350名、第2部：約700名（SNW東北 矢野）

第1部は「女性の目線で考える原子力」、第2部は「原子力の現状と期待」と題して開催された。

・第16回SNWシンポジウム テーマ「エネルギー安全保障は原子力が柱」

主催：（社）日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

日時：平成27年10月3日（土）13：00～17：30

場所：東京工業大学デジタル多目的ホール

出席者：約150名 SNW東北から 山田 矢野

山名元氏（京大名誉教授）と川口マローン恵美氏（作家）が基調講演
その後5人によるパネル討論で原子力の必要性を論じた。

・第9回東北原子力シンポジウム

日時 平成27年10月7日（水）10:30～17:15

場所 六ヶ所村文化交流プラザ・スロニー

参加者 約80名 SNW東北から 岸

主催 原子力学会東北支部 共催 六ヶ所村

主催者の日本原子力学会東北支部長の石井教授、ゲストで日本原子力学会会長の
上塚寛氏、六ヶ所村議会の佐藤議長をはじめ約80名が参加していた。本シンポ
ジウムには東北大学工学部の量子エネルギー工学専攻科の教授陣および学生が大
勢参加した。なお、学会支部が仙台から青森まで往復の貸切バスを提供した。

・「エネルギー講演会」

日時：平成27年7月24日（金）13:00～16:00、

主催：東北エネルギー懇談会

場所：ウェスティンホテル仙台

講演1．東日本大震災に耐えた原子力発電所と放射線について考える、

講演者 科学ジャーナリスト東嶋和子

講演2．今後のエネルギー政策の課題

講演者 日本エネルギー経済研究所理事長 豊田正和

・「エネルギー講演会」

日時：平成27年10月27日（火）

主催：東北エネルギー懇談会

場所：ウェスティンホテル仙台

演題：粒子線治療の現状と将来

講師：山形大学教授 根本健二

・東北大学流体科学研究所 第2回公開講座 「今、エネルギーを考える」

主催 東北大学流体科学研究所

日時 平成27年11月7日（土）13:00～16:10

場所 東北大学片平キャンパス「サクラホール」

講演1 「原子力規制の現状と今後の見通し」

講師／NPO法人パブリック・アウトリーチ上席研究員 諸葛 宗男氏

講演2 「福島第一原子力発電所事故によって汚染された土壌の減容化」

講師／東北大学大学院工学研究科教授 石井 慶造 氏
参加者 SNW東北から 10 名参加。3 名は受付を担当し協力。

・「いま改めて考えよう地層処分」 仙台シンポジウム

日時 平成 28 年 1 月 31 日（日）13:00～16:30

場所 TKP 仙台西ビジネスセンター 2F

主催：資源エネルギー庁

実施主体：NPO 法人 水・環境ネット東北

「高レベル放射性廃棄物の最終処分について」

資源エネルギー庁 池田真人

・HLWの最終処分に向けた「取組の経緯」及び「新たな取組」

・国が前面に立つ／国民・地域との丁寧な対話

「放射性廃棄物地層処分の基礎知識」

東北大学 多元物質科学研究所 准教授 桐島 陽

参加者 SNW東北 山田副代表幹事、阿部幹事

・「原燃サイクル立地地域と消費者との対話」 仙台シンポジウム

主催 資源エネルギー庁

日時 平成 28 年 3 月 7 日（月）13:00～17:00

場所 フォレスト仙台 2F ホール

参加者 約 100 名 SNW東北 岸副代表幹事

若い人の参加も多く、活発な議論があった。

・原子力学会春の大会 企画セッション：シニアネットワーク・セッション（一般公開）

日時 平成 28 年 3 月 28(月)

場所 東北大学川内キャンパス 会場：講義棟 C 棟 C201 号室

参加者 45 名 SNW東北から矢野副代表幹事他 15 名

本企画セッションはSNW東北の矢野副代表幹事が主となって企画し、発表も行った。

また阿部勝憲幹事は司会を務めた。議論は活発で討論は成功だった。

(2) 講師派遣

・日本原燃主催「原燃ECOスクール」への講師派遣

① 5 月 19 日（火） 八戸市 工藤代表幹事代行

② 5 月 20 日（水） 青森市 矢野副代表幹事

- ③ 5月21日(木) 青森市 矢野副代表幹事
- ④ 5月26日(火) 弘前市 山田副代表幹事
- ⑤ 11月24日(火) 八戸市 山田副代表幹事
- ⑥ 11月25日(水) 青森市 矢野副代表幹事
- ⑦ 11月26日(木) 青森市 矢野副代表幹事
- ⑧ 11月27日(金) 弘前市 工藤代表幹事代行

(3) 見学会について

- ・東北電力中央給電指令所見学会

日時 平成27年10月7日(水)

参加者 SNW東北会員 12名

対話活動に資するため見学会を行った。見学と共に震災直後およびその後の原子力がすべて停止している中での電力需給状況の説明を受けるとともに、太陽光の影響などについて活発な意見交換を行った。

- ・大間原子力発電所建設現場・東通原子力発電所見学会

日時 平成27年10月8日(水)

参加者 岸副代表幹事

前日の第9回東北原子力シンポジウムの併設見学会で、殆どの参加者は東北大学の学生だった。この見学会では、大間原発の現在の建設中断の状況や、東通原発の新規制基準への対応の現場の状況を知ることが出来た。

7. SNW東北のホームページの維持・管理・更新

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ：<http://www.snwthokku.jp>)

(参考) 平成 27 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	学生数	SNW 東北と SNW(東京)の参加者	備考
6/17 (水)	*長岡技術科学大学	45 名	SNW 東北 5 名 (馬場、工藤、岸、 矢野、山田) SNW (東京) 6 名	5 回目
11/11(水)	青森大学	20 名	SNW 東北 6 名 (清野、工藤、宮本、 山田、岸、矢野)	6 回目
12/7(月)	*山形大学工学部	37 名	SNW 東北 7 名 (阿部、山田、岸、 矢野、涌沢、栗野、高橋) SNW (東京) 6 名	2 回目
12/10(木)	仙台高専	3 名	SNW 東北 4 名 (工藤、矢野、水原、 高橋)	6 回目
12/12(土)	福島高専	10 名	SNW 東北 3 名 (阿部、岸、栗野) SNW (東京) 5 名	初回
12/15(火)	宮城学院女子大学	8 名	SNW 東北 4 名 (工藤、矢野、水原、 岸)	5 回目
1/22(金)	*東北大学	28 名	SNW 東北 5 名 (工藤、岸、矢野、 阿部、栗野) SNW(東京)5 名	10 回目
2/5(金)	*八戸工業大学	24 名	SNW 東北 5 名 (工藤、阿部、岸、 高橋、山田) SNW(東京)5 名	11 回目
2/16 (火)	東北学院大学	18 名	SNW 東北 6 名 (工藤、早坂、岸、 高橋、松野、栗野)	7 回目

*は SNW 連絡会と共催

参加学生 191 名 SNW 東北会員延べ 44 名

なお、日本原子力学会の SNW 連絡会による平成 27 年度の対話活動は、長岡技術科学大、京都女子大、九州工大、九州工業大、福井大・福井工大、山形大、広島商船高専、福島高専、有明高専、東北大、八戸工大、福岡教育大と 11 回実施されたが、SNW 東北としてはこのうち長岡技術科学大、山形大、東北大、福島高専、八戸工大の 5 校での対話に参加した。

以上

シニアネットワーク東北

平成26年度活動報告書

平成27年6月4日

平成 26 年度活動報告書について

シニアネットワーク東北

代表幹事 菊地新喜

「平成 26 年度の学生との対話活動」は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来 3 年を経過してなお、脱原発、卒原発の声がある中、シニアネットワーク東北は「原子力発電の啓蒙、普及を図る」という本来の目的に沿って計画通り、長岡科学技術大学（6 月）、青森大学（10 月）、山形大学（11 月）、東北大学（平成 27 年 1 月）、仙台高等工業専門学校（1 月）、八戸工業大学（1 月）の 6 校で実施することができた。

また、前年度まで行ってきた宮城学院女子大学と東北学院大学については、大学側の窓口となってくれていた先生の異動などのため実施できなかったが、次年度には再開したいと考えている。

対話集会は[地球環境とエネルギー問題]、[放射線と放射能]などのテーマで基調講演を行った後、学生 4～8 名のグループにシニア 2 名が加わり基調講演のテーマに基づき 1～2 時間の対話を行うパターンが定着してきた。しかし、東北大学のように学生側の希望で基調講演なしに対話だけを目的としたやり方も試行され、より実のある対話活動が模索されている。

対話の内容は「原子力発電は必要か」と「放射能・放射線に対する安全基準はどうなっているのか」ということが中心になっていたが、対話の中でマスコミの脱原発の論調に対して原子力発電は必要であるとの認識は持ってくれたようだ。この点に関してはここ数年変わっていない。

また、今年度は東日本興業（株）の女性社員をはじめ、東北電力（株）の塩釜営業所、石巻営業所、白石営業所および青森営業所において、主に女性社員を対象に「放射線と放射能」に関する勉強会を実施し、我々シニアとの対話を行い風評被害を避けるため放射線に関する正しい知識の普及に努めた。

シニアネットワーク東北 平成26年度活動報告

1. 第6回定期総会

日時 平成26年6月13日(金) 15:00~15:50

場所 東北エネルギー懇談会会議室

- ・平成25年度の活動報告、会計報告が承認され、平成26年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。
- ・代表幹事および幹事ならびに監事について原案どおり承認された。また業務量の幹事長への過度の集中の反省から、菊地代表幹事は4名の副代表幹事を指名し了承された。

記念講演 (第16回勉強会参照)

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成26年5月29日(木) 10:00~17:00

場所 東北電力本店 1A会議室

参加者 SNW東北:4名、SNW連絡会:3名、新入社員:16名と対話。

基調講演 SNW東北幹事 元東北電力常務取締役 阿部 壽氏

前年度とほぼ同じ内容だが、1990年に土木学会で発表された研究論文「仙台平野における貞観11年三陸津波の痕跡高の推定」についてお話しされた。この話は女川原子力発電所が阿部氏のような先輩たちの関心と努力により、3年前の大津波にも耐えることが出来たのだというのを強く印象づけてくれた。

(2) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催(4回目)

日時 平成26年6月25日(水) 13:00~16:10

場所 長岡技術科学大学 講義棟1F 103室

参加者 長岡技術科学大学 大塚雄市特任講師

長岡技術科学大学学生 58名(ベトナムからの留学生3名)

SNW東北:3名 SNW連絡会:6名

基調講演 「原子力問題を考える」(講師:SNW連絡会 林 勉氏)

平成26年6月25日に長岡技術科学大学にて今年で4回目となる対話会が開催され学生58名、シニア9名が参加した。今年は、原子力

複合災害時の避難行動に着目したリスクアセスメントとリスクコミュニケーションを対話会共通テーマに設定し、リスク評価の不確実性と住民～行政/事業者間のコミュニケーションの阻害要因について学ぶことを目的に対話を行った。大塚先生の事前の意識付けと日常の指導が浸透し、学生たちは自学自習で情報を獲得して入念に準備してきており、「避難計画と不確定要素」という特化されたテーマであったものの双方向の対話が円滑に進み充実した質の高い対話会となった。学生たちは事前に対話会での役割分担を決めており発表も事前によく吟味され要点をしっかりと捉えたものであった。尚、参加シニアには初めての試みとして「自己採点評価」を実施してもらい、今後のシニアネットワークの活動改善に資することとした。

(3) 青森大学 (5回目)

日時 平成 26 年 10 月 29 日 (水) 14:45～17:30

場所 青森大学 633 教室

参加者 学生：ソフトウェア情報学部、経営学部、薬学部 3～5 年生 16 名

教授：ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授他

S NW東北 7 名

基調講演 1 菊地新喜代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演 2 工藤昭雄副代表幹事 「放射線と放射能について」

S NW東北の青森大学における対話集会は 5 回目である。

最初に教室で「地球環境とエネルギー問題」、「放射線と放射能」について、各 30 分の基調講演が行われた。その後、各学生 7～11 名と S NW東北 2 名との 3 グループに分かれて約 1 時間グループ対話を行った。対話の後、再び教室に集まり、各グループ代表者から対話内容の説明があった。その間、講演、グループ対話についてのアンケートも実施した。最後に、S NW東北からグループ対話の講評を行い、日程を終了した。

(4) 山形大学 S NW連絡会と共催 (4回目)

日時 平成 26 年 11 月 10 日 (月) 14:30～17:50

場所 山形大学工学部 (米沢市城南 4-3-16)

100 周年記念館セミナー室

参加者 大学側 電気電子工学分野 東山禎夫教授、南谷准教授、杉本准教授、
八塚准教授

学生 電気電子工学科30名

シニア SNW東北:7名、SNW連絡会:6名

基調講演

講師 川合将義 高エネルギー加速器研究機構名誉教授

演題 「福島復興に向けた動きと課題」

上記のテーマの元、東電福島第一原発事故の進展と影響、福島第一原発汚染水対策の状況及び廃炉並びに廃棄物処理計画も含め、地域の除染状況（含む中間貯蔵施設の状況）更に福島復興の動きについて多岐にわたる状況の概要説明が行われた。

基調講演の後6班に分かれ、各班5名の学生とシニア2人が学生から出された質問を話題に対話した。

今回の対話はSNW東北の高橋弘道氏が大学側と交渉して実現したもので、東山教授からこのような技術者OBとの対話の機会が持てたことに対し感謝の言葉があり、来年度も続けていきたいと話された。

(5) 東北大学工学部 SNW連絡会との共催 (9回目)

日時 平成27年1月16日(水) 13:00~18:00

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学本館

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 31名

教官 4名

シニア SNW東北:5名、SNW連絡会:5名

オブザーバ 日本原子力産業協会(JAIF) 2名

総括講演 (講師:SNW連絡会 石井代表幹事)

演題 「ポスト福島におけるエネルギー・原子力・環境の再構築」

今回で9回目となる東北大学での対話会の今回の最大の特徴は、大学側の要望で対話時間を最大限確保することで計画したこと。通常実施している基調講演や対話後の学生発表を割愛しその代わりに対話後に総括的な講話をすること、並びに対話は2回実施し学生のグループ分けと設定テーマを組み替えてより多くのシニアと多様な対話を試みた点である。

シニアのペアリングと担当テーマは固定とした。これにより、学生たちの対話満足度は従来以上であり、シニアにとっても達成感に満ちた対話会となったが、各グループでの対話の全体像がつかめないなどの課題も浮上した。

尚、今回は学生による発表の代わりに感想分を提出してもらった。

(6) 仙台高等専門学校 (5回目)

日時 平成27年1月30日(金) 13:15~17:00

場所 仙台高等専門学校名取キャンパス 専攻科棟4F教室他

参加者 仙台高専 吉野教授 専攻科学生:12名、SNW東北:4名

基調講演1 菊地新喜代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演2 矢野歳和副代表幹事 「放射線と放射能」

各30分間の基調講演2件の後、「はかるくん(CP-100)」を使用しキャンパス内の任意の場所で計測実習が行われ、計測地点により線量率が異なることを実感できた。

その後「放射線と放射能」と「環境とエネルギー」の2つのグループに分かれて60分間の対話をし、グループ発表を計10分間で行った。学生の反応は、原子力とのベストミックスより再生可能エネルギーに興味がある一方、その限界も感じており、ロシアとウクライナのガス取引がニュースとなっていたことからエネルギーセキュリティや外交問題、原子力や放射線に対するマスコミの動きに疑問を持つ学生もいた。最後に講評では早坂監事が学生の多様な考え方をまとめ、多くの情報を得て適正な判断が出来るように勧めた。

(7) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (10回目)

日時 平成27年2月2日(月) 10:00~17:30 (午前中は学生のみ)

場所 八戸工業大学 メディアセンター

参加者 八戸工大学生 35名

教職員 5名、 SNW東北 4名、 SNW連絡会 5名

基調講演 坪谷 隆夫 SNW連絡会副会長

演題 「一緒に学ぶエネルギーと原子力について」

対話に先立ち、昼食に学生とせんべい汁を食しながら互いが打ち解け、

その流れをグループ対話に繋ぐことで本音ベースの活発で深みのある対話が実現。基調講演はSNW連絡会副会長坪谷氏から、これからの原子力の安全と安心の課題の基本にかかわる最新状況を踏まえた簡潔な要点説明があった。学生の発表内容では、一連のカリキュラムでエネルギー問題に対する論点整理が出来上がっており、それを下敷きにしてポイントを外さない立派なもので質疑応答でも堂々と意見を述べる学生の姿は印象的で頼もしいものであった。シニアにとっても、世代を超えた対話は多様な内容で学生のこれからの将来の可能性を感じるもので、達成感に満ちたものであった。八戸工業大学の先生方のエネルギー問題に対する熱い視線と長年のご尽力に敬意を表したい。来年も2月頃に対話会を計画するとのこと。

(8) 風評被害予防キャンペーン活動

原子力の再稼働に係る風評被害予防（情報提供）を目指して平成26年度は東日本興業（株）、東北電力（株）の塩釜営業所、石巻営業所、白石営業所および青森営業所において、主に女性を対象に講演と対話を行った。

・東日本興業（株）

日時 平成26年9月17日（水）

場所 電力ビル8階 東日本興業会議室

参加者 17名（うち女性社員13名）、SNW東北（菅原、工藤、山田、矢野）

基調講演 SNW東北 山田信行副代表幹事

・東北電力（株）塩釜営業所

日時 平成26年11月26日（水）

場所 塩釜営業所会議室

参加者 31名（所員15名、電友会（OB）14名、本店2名）

SNW東北（菅原、清野、工藤、涌沢、三塚、山田、矢野）

基調講演 SNW東北 矢野歳和副代表幹事

・東北電力（株）石巻営業所

日時 平成26年12月16日（火）

場所 石巻営業所会議室

参加者 所員24名、関係企業3名、電友会（OB）9名、本店2名など約40名
S N W東北（菊地、菅原、高橋（弘）、涌沢、岸、山田）
基調講演 S N W東北 山田信行副代表幹事

・東北電力（株）白石営業所

日時 平成27年1月30日（金）
場所 白石営業所会議室
参加者 43名（検針員30名、所員5名、電友会（OB）5名、支店1名、本店2名）
S N W東北（菅原、高島、栗野、宮本、岸、工藤）
基調講演 S N W東北 工藤昭雄副代表幹事

・東北電力（株）青森営業所

日時 平成27年3月5日（水）
場所 青森営業所会議室
参加者 ライトサークル（OG会）50名、本店2名、支店1名、営業所数名
など約60名
S N W東北（菅原、栗野、工藤、山田、矢野）
基調講演 S N W東北 矢野歳和副代表幹事

・東北電力（株）本店

平成27年3月17日、S N W東北の働きかけに応じた本店電友会および
広報部は、本店電友会主催の講演会（岡信常務の講演）参加者約200名に、
電気事業連合会資料「放射線 Q&A」とS N W東北勉強会資料「風評被害を
防ぎ、放射線から子どもを守るために」を配布した。

3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を3回実施した。

(1) 第16回会員勉強会（第6回定期総会での記念講演）

日時 平成26年6月13日（火）16:00～17:30
場所 東北エネルギー懇談会会議室
参加者 26名

講師 東京電力ソーシャルコミュニケーション室
兼立地地域部リスクコミュニケーター 皆川喜満 様

演題 「福島原発水処理の現状と課題」

東日本大地震と津波により発生した福島第一原発の事故の影響は大きく、現在も大量の汚染水の発生が続いておりその対策に懸命の努力が注がれている。今回は東京電力の第一線の責任者である皆川様に現状と今後の予定について貴重な情報を提供して頂いた。

(2) 第17回会員勉強会

日時 平成27年1月19日(月) 16:10~17:15

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 講師を含め13名

講師 SNW東北会員 栗野 量一郎幹事

演題 「雷のはなし」

古来、自然界のエネルギーを象徴する存在である雷様について、科学的な面や文化的な面を交えて大変興味ある話が聴け、大変有意義な会員勉強会となった。

(3) 第18回会員勉強会

日時 平成27年2月23日(月)

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 講師を含め14名

講師 高島 敬二幹事

演題 「燃料関係最近のトピックス」

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日 (必要に応じて臨時)

- (1) 第51回 平成26年4月28日
- (2) 第52回 平成26年6月3日
- (3) 第53回 平成26年7月14日
- (4) 第54回 平成26年9月24日
- (5) 第55回 平成26年10月27日
- (6) 第56回 平成26年11月25日

- (7) 第 57 回 平成 26 年 12 月 22 日
- (8) 第 58 回 平成 27 年 1 月 19 日
- (9) 第 59 回 平成 27 年 2 月 23 日
- (10) 第 60 回 平成 27 年 3 月 23 日

5. 「SNW連絡会運営小委員会」および「エネルギー問題に発言する会運営委員会」参加
原則毎月第3木曜日（8月は休会）

（場所）原子力安全推進協会（JANSI）会議室
情報収集およびSNW連絡会との共催対話活動の円滑化等のため参加し、拡大幹事会で報告，必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成 26 年度参加シンポジウム、講師派遣、見学会

(1) 参加シンポジウムなど

・ OECD 加盟 50 周年記念・OECD/NEA 会議

International Conference on Global Nuclear Safety Enhancement

主催 OECD/NEA

日時： 平成 26 年 4 月 8 日（火）

場所： 東京プレスセンター（千代田区内幸町 2-2-1）

参加者 山田副代表幹事

・ 中西準子先生講演「食のリスクを考える」

主催 NPO 食のコミュニケーション円卓会議

日時 平成 26 年 6 月 20 日（金）

場所 東京都産業労働局秋葉原庁舎 3F

参加者 矢野副代表幹事

・ 第15回SNWシンポジウム 責任ある原子力総合政策を！

～第4次エネルギー基本計画の具体化に向けて～

主催：（社）日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

日時： 平成 26 年 8 月 2 日（土）13：00～17：30

場所： 東京大学武田先端知ビル 5 階ホール

出席者： 約150名 SNW東北から 岸 工藤 山田 矢野

- ・日本原子力学会シンポジウム 女性のためのフォーラム
 「低線量被ばくと健康影響について」
 主催 日本原子力学会
 日時 平成 26 年 8 月 30 日（土）
 場所 コラッセ福島
 参加者 山田副代表幹事、矢野副代表幹事

- ・原子力学会秋の大会
 日時 平成 26 年 9 月 8 日(月)～10 日（水）
 場所 京都大学吉田キャンパス
 参加者 矢野副代表幹事

- ・「六ヶ所村からの発信～原子力と私たちの歩み～」仙台シンポジウム
 主催 六ヶ所村文化協会読書愛好会
 日時 平成 26 年 10 月 5 日（日）
 場所 エル・ソーラ仙台 アエル 2 8 F 大研修室
 参加者 山田副代表幹事、菅原幹事

- ・今やる放射線教育
 主催 NPO 法人放射線教育フォーラム
 日時 平成 26 年 11 月 16 日（日）
 場所 東京慈恵会医科大学 高木 2 号館南講堂）
 参加者 山田副代表幹事

- ・東北大学流体科学研究所公開講座 「今、エネルギーを考える」
 主催 東北大学流体科学研究所
 日時 平成 26 年 12 月 13（土） 13:00～16:10
 場所 東北大学片平キャンパス「サクラホール」
 講師 常葉大学教授 山本隆三氏 「エネルギー・経済政策を考える」
 東北大学教授 橋爪秀利氏 「新規制基準を考える」
 参加者 SNW 東北から 10 名参加 3 名は受付も担当し協力

- ・第 39 回放射線防護研究会 「放射線教育の現状と今後のあり方」
 主催 NPO 放射線フォーラム
 日時 平成 26 年 12 月 13 日（土）

場所 東京都 御茶ノ水ビル

参加者 早坂明夫監事

・原子力学会シンポジウムー農作物と放射性物質・放射線と健康影響」

主催 日本原子力学会

日時 平成 27 年 1 月 31 日（土）

場所 いわき産業創造館 企画展示ホール（いわき市）

参加者 山田副代表幹事、矢野副代表幹事

(2) 講師派遣

・日本原燃主催「原燃 E C O スクール」への講師派遣

① 5 月 12 日（月） 八戸市 工藤副代表幹事

② 5 月 13 日（火） 青森市 山田副代表幹事

③ 5 月 19 日（月） 弘前市 清野幹事

④ 5 月 20 日（火） 青森市 矢野副代表幹事

⑤ 12 月 15 日（月） 弘前市 山田副代表幹事

⑥ 12 月 16 日（火） 八戸市 矢野副代表幹事

⑦ 12 月 17 日（水） 青森市 工藤副代表幹事

⑧ 12 月 18 日（木） 青森市 工藤副代表幹事

(3) 見学会について

・東京電力（株）柏崎刈羽原子力発電所見学

日時 平成 26 年 6 月 26 日（木）

参加者 馬場幹事、矢野副代表幹事

6 月 25 日の長岡技術科学大学における対話の翌日に、再稼働に取り組み対策中の柏崎原発の現状を見学した。

・日本原子力発電（株）敦賀発電所見学

日時 平成 26 年 9 月 11 日（木）

参加者 矢野副代表幹事

京都大学での日本原子力学会秋の大会プログラムに組み込まれた敦賀発電所見学会に参加した。再稼働の準備を進めている最中だが、サイト内の活断層の有無で原子力規制委員会と意見が対立している同サイトの状況について見学し、詳しい説明を聞いた。

・火力発電所見学

日時 平成 26 年 12 月 1 日 (火)

場所 東北電力(株)新仙台火力発電所、仙台火力発電所

参加者 会員 15 名

SNW東北として会員のエネルギー産業に関する知識向上を目的に企画したもので、建設中の最新鋭コンバインドサイクルである新仙台火力第3号系列や東日本大震災の津波被害から復旧した仙台火力4号機を見学した。また仙台火力発電所の構内に建設され平成24年5月に運転開始した「仙台太陽光発電所」も見学した。

7. SNW東北のホームページの維持・管理・更新

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ：<http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 26 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	学生数	SNW 東北と SNW(東京)の参加者	備考
6/25(水)	*長岡技術科学大学	58 名	SNW 東北 3 名 (馬場、工藤、矢野) SNW (東京) 6 名	4 回目
10/29(水)	青森大学	16 名	SNW 東北 7 名 (菊地、清野、工藤、 宮本、菅原、岡本、岸)	5 回目
11/10(月)	*山形大学	30 名	SNW 東北 6 名 (菊地、菅原、高橋 (弘)、工藤、山田、岸) SNW (東京) 6 名	5 回目
1/16(水)	*東北大学	31 名	SNW 東北 5 名 (工藤、山田、矢野、 栗野、岸) SNW(東京)5 名	9 回目
1/30(金)	仙台高専	12 名	SNW 東北 4 名 (菊地、早坂、水原、 矢野)	5 回目
2/2(月)	*八戸工業大学	35 名	SNW 東北 4 名 (菊地、工藤、栗野、 岸) SNW(東京)5 名	10 回 目

(注) *印は東京のシニアネットワークと共催

参加学生 182 名 S N W東北会員延べ 32 名

なお、日本原子力学会の S N W連絡会による平成 26 年度の対話活動は、長岡技術科学大、愛知教育大、北九州高専、九州工大、鹿児島大、九州大学、福井大・福井工大、関東複数大学、東北大、広島商船高専、八戸工大、長崎大、山形大、京都女子大と 14 回実施されたが、S N W東北としてはこのうち長岡技術科学大、山形大、東北大、八戸工大での対話に参加している。

この4校での参加シニア総数43名のうち、地元シニア (= S N W東北) の貢献は19名であり、地元貢献度は44%であった。なお、S N W東北と同様に S N W九州、および関西地区在住 S N W会員が地元学校の学生との対話に取り組んでおり、その貢献は大きい。

以上

シニアネットワーク東北 平成 25 年度活動報告

1. 第 5 回定期総会

日時 平成 25 年 6 月 18 日 (火) 15:00~18:00

場所 東北電力ビル 1 階 1BC 会議室

- ・平成 24 年度の活動報告、会計報告が承認され、平成 25 年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。
- ・土田会員より「国際リニアコライダー (ILC) について勉強会開催」の提案があり、検討することになった。
- ・高橋幹事長より幹事の追加選出について提案があり、阿部壽氏、工藤昭雄氏、多田省一郎氏、前川文章氏の幹事選出が承認された。

記念講演(第 14 回勉強会参照)

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成 25 年 5 月 30 日 (木) 10:00~17:00

場所 東北電力本店 1A 会議室

参加者 SNW東北：3名、SNW連絡会：3名、新入社員：20名と対話。

基調講演 SNW 東北幹事 元東北電力常務取締役 阿部 壽氏

1990 年に土木学会で発表された研究論文「仙台平野における貞観 11 年三陸津波の痕跡高の推定」についてお話しされた。この話は女川原子力発電所が阿部氏のような先輩たちの関心と努力により、3 年前の大津波にも耐えることが出来たのだということを強く印象づけてくれた。

また、この話に続いて「原子力とともに歩んだ私の技術者人生」と題して氏が会社における仕事にどう取り組んできたかを事例として詳しく語り、新入社員に訴えたい心構えを示した。

(2) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催 (3 回目)

日時 平成 25 年 6 月 12 日 (水) 13:00~16:10

場所 長岡技術科学大学 総合棟 7F 階会議室

参加者 長岡技術科学大学 特任講師 大塚雄市、原子力安全系 教授 片岡純一教授、

長岡技術科学大学 大学院 工学研究科 修士課程 1年 23名
(原子力システム安全工学8名、機械創造工学3名、環境システム工学11名、建設工学専攻1名)
SNW 東北：2名 SNW 連絡会：6名

基調講演①「原子力発電所の安全確保の考え方」(大野崇氏)

基調講演②「福島第一発電所事故原因と対策の状況」(上田隆氏)

今回の学生とシニアの対話会は、長岡技術科学大学大学院工学研究科の特別講義の一環として実施された。

福島第一原発の事故から約2年が経過し、政府、国会、民間、東京電力他の事故調査報告書等が公表され、事故の経過や対策についての情報が整いつつあり、また、新規規制基準(新安全基準)が施行されようとしているこの時点で、「福島第一原子力発電事故の教訓と対策、及び、新安全基準の考え方」について6テーマに分けて実施した対話は、学生が原子力技術の将来を考えるためにも効果的なものであった。学生は修士課程の1年で原子力システム安全工学専攻が中心だったこともあり、新基準の考え方などかなどかなり専門的な対話であったが、大塚先生の指導のお蔭で学生の積極的な姿勢が目立ち、大変頼もしく感じた。

(3) 仙台高等専門学校(4回目)

日時 平成25年10月18日(金) 13:15~17:00

場所 仙台高等専門学校名取キャンパス 専攻科棟4F教室他

参加者 仙台高専 吉野教授 専攻科学生:34名、SNW 東北:8名

基調講演1 菊地新喜代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演2 山田信行副代表幹事 「放射線と放射能」

その後、「はかるくん(CP-100、GM-100)」を使用した計測実習が行われた。

対話

基調講演の後、4グループに分かれて対話を行った。90分間対話を行い、対話の内容について各グループから報告を聞いた。

学生は、きちんとした考えに基づいて熱心に検討し対話を行った。

初めて聞いた話が多かったと思うが、熱心に聴きざっくばらんな意

見を出してもらった。震災後にエネルギーに関していろいろな意見が出ているが、こういう環境の中で今回の対話は有意義なものだったと思われる。

(4) 青森大学 (4回目)

日時 平成 25 年 10 月 30 日 (水) 14:00~17:20
場所 青森大学 622 教室他
参加者 学生：ソフトウェア情報学部 1~4 年生 26 名
教授：ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授他
SNW 東北 6 名

基調講演 1 菊地新喜代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演 2 清野 浩幹事 「放射線と放射能について」

SNW 東北の青森大学における対話集会は 4 回目である。

最初に教室で「地球環境とエネルギー問題」、「放射線と放射能」について、各 30 分の基調講演が行われた。その後、各学生 7~11 名と SNW 東北 2 名との 3 グループに分かれて約 1 時間グループ対話を行った。

対話の後、再び教室に集まり、各グループ代表者から対話内容の説明があった。各グループ内で話し合った結果の纏めでは、「新エネルギーだけで日本のエネルギーが解決できる状態ではなく、安全を強化した原子力発電所の再稼働も含めてバランスのとれたエネルギー政策であるべき」との結論を発表しており、こちらの言いたいことが伝わったようだ。

その間、講演、グループ対話についてのアンケートも実施した。最後に、SNW 東北からグループ対話の講評を行い、日程を終了した。

(5) 東北大学工学部 SNW 連絡会との共催 (8 回目)

日時 平成 25 年 12 月 18 日 (水) 13:00~18:00
場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学本館
参加者 量子エネルギー工学専攻学生 学部 4 年：3 名 修士 1 年：28 名、教官 3 名
SNW 東北 6 名、 SNW 連絡会 5 名

基調講演

講師 松永 一郎氏

演題 「原子力を巡る諸問題と今後の展望」について

講演は3.11東電福島第一原子力発電所事故後の我が国と外国の実態について、原子力技術を学ぶ学生には必須と思われる情報を与えるものであった。また、「原子力の信頼回復とリスクコミュニケーション」について、8月のSNW第14回シンポジウムのポイントを絞って紹介した。

対話

基調講演の後、5グループに分かれて約2時間シニアと学生の対話を行った。あらかじめ学生から質問事項が来ており、このため焦点を絞って対話できた。また対話の後、学生一人一人から対話の成果について発表があったが、皆さんとも原発の必要性を認めているものであった。

(6) 宮城学院女子大学 (4回目)

日時 平成26年1月24日(金) 10:20~12:10

場所 宮城学院女子大学キャンパス

参加者 学生 生活文化学科3年生 19名

教員 林 基哉教授、日下 彩先生

SNW東北 3名

今回は従来の対話形式ではなく、林教授の講義の一コマで行った。従って、グループ分けをした対話ではなく放射線に関する講義と「はかるくんⅡ」を用いたバックグラウンドの測定実習を行った。

講義 清野 浩幹 「放射線と放射能について」

「はかるくん」によるバックグラウンド(大学の構内)の測定

・測定データの検討

(7) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (9回目)

日時 平成26年1月29日(月) 10:00~17:30(午前中は学生のみ)

場所 八戸工業大学 メディアセンター

参加者 八戸工大学生 約27名

教官 3名、SNW東北 5名、SNW連絡会 5名

基調講演 小川 博巳 SNW 会長代行

演題 「えんぷりと原子力；諸君への期待」

今年で9回目となる今回の企画は八戸工大における4年間に亘る一連の原子力関連カリキュラムの一環として同学3年生を対象とする「原子力体感研修（原子力関連施設の見学など）」の纏めとして実施されたもの。参加学生はこれまでの対話会の経験から、学生とリラックスした対話を持てるように昨年同様事前に学生とシニアが昼食を共にするという学校側の配慮により、八戸名物のせんべい汁を囲んだ昼食会が行われた。これがスムーズな対話を進めるうえで功を奏した。

基調講演では、①福島/女川に何を学ぶか ②日本の電力供給は大丈夫か ③グローバルなエネルギー事情 ④学生諸君への期待という内容で現在の危機的な状況を理解させ、また期待とエールを送るものだった。

基調講演後、5班に分かれて約2時間の対話を行った後、学生はグループ討論の後、各グループ代表による討論総括報告と一人一人の感想表明があった。

(8) 東北学院大学 (6回目)

日時 平成26年2月21日(金) 13:00~17:00

場所 東北学院大学工学部 多賀城キャンパス 3号館2F

参加者 工学部電気工学科3年生と院生12名

SNW 東北 8名

基調講演1 岸 昭正副代表幹事 「エネルギー・環境問題と原子力の役割」

基調講演2 工藤 昭雄幹事 「放射能と放射線」

基調講演の後、4グループに分かれて約2時間の対話を行った。その結果について各グループの代表からの報告を聞いた。今回は急に学生の就職関係の行事が入ったようで参加者は予定の半数程度になったが、その分少人数なので対話がし易かったため、学生の発言は自然に前年度よりも突っ込んだ内容となった。対話の内容は昨年同様「原子力発電は必要かどうか」と「放射性物質の安全基準はどうなっているか」という点に集中していたが、対話の中ではマスコミの脱原発の風潮に対して原子力発電は必

要であるとの認識を持ってくれたようだ。

3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を2回実施した。

(1) 第14回会員勉強会（第5回定期総会での記念講演）

日時 平成25年6月18日（火）16:00～17:20

場所 東北電力本店1階 1BC会議室

参加者 26名

講演①

講師 日本原燃（株）専務取締役 田中治邦 様

演題 「日本六ヶ所原子力燃料サイクル施設の現状と将来見通し」

田中治邦様より「日本原燃の経営概況」「各事業の現状と今後」「使用前検査と竣工の見通し」「六ヶ所再処理工場の安全性」「活断層の評価について」等について貴重なご講演を頂いた。

講演②

講師 東北電力（株）原子力部部長 八重樫武良 様

演題 「IAEAによる女川原子力発電所の地震性能等に関する調査について」

八重樫武良様より「東北地方太平洋沖地震の概要」「IAEA専門家による調査の概要」「IAEA調査報告書の概要」について有意義なご講演を頂いた。

講演③

講師 東北電力（株）原子力部副部長 小保内秋芳 様

演題 「女川・東通原子力発電所の再稼働に向けた取り組みについて」

小保内秋芳様より「安全性向上対策」「新規制基準の概要」「再稼働に向けた取り組み」について詳細なご講演を頂いた。

(2) 第15回会員勉強会

日時 平成25年7月29日（月） 16:10～17:15

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 講師陣を含め22名

講師 東北経済連合会常務理事 高玉 昌一様

演題 「国際リニアコライダー（ILC）計画について」

先端科学である「リニアコライダー」は大変興味あるものであり、現在「東北」と「九州」で綱引きされていることから活発に質疑が出され、大変有意義な会員勉強会となった。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日 (必要に応じて臨時)

- (1) 第41回 平成25年4月22日
- (2) 第42回 平成25年5月27日
- (3) 第43回 平成25年6月24日
- (4) 第44回 平成25年7月29日
- (5) 第45回 平成25年9月24日
- (6) 第46回 平成25年10月28日
- (7) 第47回 平成25年11月25日
- (8) 第48回 平成26年1月27日
- (9) 第49回 平成26年2月24日
- (10) 第50回 平成26年3月24日

5. 「SNW連絡会運営小委員会」および「エネルギー問題に発言する会運営委員会」参加
原則毎月第3木曜日 (8月は休会)

(場所) 原子力安全推進協会 (JANSI) 会議室

情報収集のため参加し、拡大幹事会で報告、必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成25年度参加シンポジウム、見学会

(1) 参加シンポジウムなど

・日本原燃 「エネルギー研修会」

主催 日本原燃 青森本部

日時 平成25年4月3日 (水)

場所 青森市

参加者 清野浩幹事、菅原剛彦幹事

・第29回放射線防護研究会

主催 放射線安全フォーラム

日時 平成25年4月18日 (木)

場所 東京大学

参加者 工藤昭雄幹事

- ・東工大シンポジウム
 主催 東京工業大学
 日時 平成 25 年 5 月 28 日（火）
 場所 東京工業大学
 参加者 菅原剛彦幹事
 テーマ 「東日本大震災に耐えた東北電力女川原子力発電所について」
 「津波の痕跡調査について」
- ・長岡技術科学大学での講演
 日時 平成 25 年 6 月 4 日（火）
 場所 長岡技術科学大学
 阿部壽幹事が同大学で「津波の痕跡調査について」の講演を行った。
 阿部氏が 1990 年ごろ実施した貞観津波の痕跡調査に関するもので、一般を含めて 80 名の参加があった。
- ・第 14 回 S N W シンポジウム “原子力は信頼を回復できるか？”
 日時 平成 25 年 8 月 3 日（土）13:00～18:00
 場所 東京工業大学
 参加者 約 300 名 S N W 東北からは早坂、工藤、山田、岸が参加
 J R 東海会長の葛西敬之氏が基調講演を行った後、表題のテーマについてパネルディスカッションがあった。
- ・原子力学会秋の大会
 日時 平成 25 年 9 月 3 日～5 日
 場所 八戸工業大学
 参加者 菊地新喜代表幹事、山田副代表幹事が参加。
 菊地代表幹事は 9 月 5 日の S N W 企画セッションのパネル討論に参加した。
- ・放射線に関する青森シンポジウム
 主催 鹿島建設青森支社
 日時 平成 25 年 10 月 9 日（水）13:30～15:30
 場所 青森市
 テーマ 「放射線と放射能」
 講師 清野浩幹事
 参加者 山田副代表幹事、菅原幹事、清野幹事、三塚幹事、工藤幹事、鹿島建設関係者約 25 名

・保物セミナー 2013

主催 保物セミナー 2013 実行委員会

日時 平成 25 年 12 月 5 日 (木)

場所 大阪科学技術センター

参加者 山田副代表幹事

福島第一原子力発電所事故から2年半が経過した福島での諸問題について
「低線量放射線の人体影響」、「福島復興への取り組みと放射線防護上の課題」などの講演会

・日本原燃主催放射線セミナーでの講演

① 12 月 16 日 (月) 弘前市 工藤昭雄幹事

② 12 月 17 日 (火) 八戸市 山田信行副代表幹事

③ 12 月 18 日 (水) 青森市 山田信行副代表幹事

④ 12 月 19 日 (木) 青森市 清野浩幹事、菅原剛彦幹事

(2) 見学会について

なし

7. SNW 東北のホームページ作成

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ : <http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 25 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	学生数	SNW東北とSNW(東京)の参加者	備考
6/12(水)	*長岡技術科学大学	23名	SNW東北2名(馬場、岸) SNW(東京)6名	3回目
10/18(金)	仙台高専	34名	SNW東北8名(菊地、清野、山田、高橋(謙)、高橋(弘)、水原、早坂、涌沢)	4回目

10/31(水)	青森大学	26名	SNW東北6名(菊地、清野、高橋(謙)、岸、工藤、宮本)	4回目
12/18(木)	*東北大学	31名	SNW東北6名(高橋(謙)、岸、工藤、栗野、佐々木、涌沢) SNW(東京)5名	8回目
1/24(金)	宮城学院女子大学	19名	SNW東北3名(菊地、清野、山田)	4回目
1/29(月)	*八戸工業大学	27名	SNW東北5名(菊地、高橋(謙)、岸、工藤、栗野) SNW(東京)6名	9回目
2/21(金)	東北学院大学	12名	SNW東北8名(菊地、高橋(弘)、高橋(謙)、宮本、水原、栗野、岡本、岸、)	6回目

(注) *印は東京のシニアネットワークと共催

参加学生 172名 SNW東北延べ 38名

なお、日本原子力学会のSNW連絡会による平成25年度の対話活動は、長岡科学技術大、愛知教育大、北九州高専、九州工大、鹿児島大、九州大学、福井工大、福岡教育大、関東、佐賀大、東北大、広島、八戸工大と13回実施されたが、SNW東北としてはこのうち長岡技術科学大、東北大、八戸工大での対話に参加している。

以上

シニアネットワーク東北 平成 24 年度活動報告

1. 第 4 回定期総会

日時 平成 24 年 6 月 4 日（月） 15:00～17:40

場所 東北エネルギー懇談会会議室

今総会で会則の一部改定が承認された。また「代表幹事」に新たに菊地新喜氏が選任され、また今回改定された会則に基づき、菊地代表幹事より、「副代表幹事」に岸昭正氏および山田信行氏が、「幹事長」に高橋謙治氏が任命された。

記念講演

講師 シニアネットワーク連絡会運営委員 小川 博巳氏

演題 学生とシニアの対話交流の成果について

小川様より「学生とシニアの往復書簡が作成されるまでの経緯」や「学生達の対話交流に対する期待」および「シニアネットワークの対話交流の方向性」など有意義で貴重なご講演を頂いた。

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成 24 年 5 月 24 日（木） 10:00～17:00

場所 TKP 仙台カンファレンスセンター ホール 4A

参加者 SNW東北 7名、SNW連絡会 7名、新入社員 46名と対話。

基調講演 SNW 代表幹事 菅原剛彦氏

「東北における原子力の役割」と題して新入社員教育にふさわしい内容で、自己紹介も含めて東北の電力の歴史、原子力発電の歴史、原子力の役割、津波に関する話題として女川を救った先人の英断、その他環境問題における原子力の利点、放射線のリスクなどについて約 2 時間講演した。

対話では、福島原発事故の影響で高まった放射線のリスクや脱原発の風

潮などで不安を抱えた新入社員と特に真剣な対話になった。

(2) 山形大学 (3回目) SNW連絡会との共催

日時 平成24年7月21日(土) 11:30~16:50

場所 山形大学理学部大講義室他(小白川キャンパス)

参加者 理学部、工学部、農学部、人文学部の教養課程1年生21名。

SNW東北 6名、SNW連絡会 8名

山形大学では教養課程1年生の「放射線教育」(担当:齋藤和男理学部教授)授業の一環として2年前からシニアとの対話を実施してきたが、好評であり本年も実施することになった。

なお、7月18日(水)に齋藤伸三会長が「対話イン山形2012」の事前講義として1年生に「原子力発電所および福島事故」に関連した講義、および7月21日の午前中に対話会に先立って、坪谷隆夫氏(SNW)が「福島原子力災害と新たなお放射性廃棄物の課題」の講義を実施した。

(3) 東北大学工学部 SNW連絡会との共催(7回目)

日時 平成24年10月4日(木) 12:45~18:00

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学専攻

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 38名、教官 3名

SNW東北 6名、SNW連絡会 10名

基調講演

講師 齋藤 伸三氏

演題 東電福島事故の概要・原因・対策と我が国のエネルギー問題

東北大学では2006年(平成18年)から毎年開催され、今回は7回目の対話である。学生とシニアとの対話を通して、学生にエネルギー・環境問題や原子力について正しく理解してもらい、同時にこれらの問題に対してどのように臨むべきかを一緒に議論し、シニアの思いを伝

えることを目的とする。特に原子力の実務を経験してきたシニアの知恵と知識を、社会に出る前の学生が吸収し、その将来への自信に繋げてもらうことを意図する。

シニアの一人は講評で「エネルギーや原子力の問題は、特に日本の将来のために大変重要な課題であり、マスコミ等の報道に一喜一憂するのではなく、長期的な視点から理解して欲しい。私は原子力は将来必要だと思うが、それらを含めて判断を下すのは皆様方若者だ。今回の福島原発事故は歴史にも残る程の大きな事件であり、これがどのように収束し復興していくかを皆さんはよく見て欲しい。その体験が必ず将来役に立つと思う」と強調した。

(4) 仙台高等専門学校 (3回目)

日時 平成24年10月19日(金) 13:15~17:00

場所 仙台高等専門学校(名取キャンパス) 専攻科棟 マルチメディアルーム

参加者 仙台高専 専攻科 41名、SNW東北 9名

基調講演1 山田 信行氏 「放射線と放射能」

基調講演2 菊地 新喜氏 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演の後、4グループに分かれて対話を行った。90分間対話を行い、対話の内容について各グループから報告を聞いた。

学生は、きちんとした考えに基づいて熱心に検討し対話を行った。かつ、原子力の必要性やその理由、または代わるものなどを含めた考えを持っていた。現在のエネルギーや環境問題は、過去の積み重ねの結果であり、次世代を背負う学生たちには先輩が積み残した課題に果敢に立ち向かって欲しい。今日の対話を糧に一層の活躍を祈念したい。

(5) 青森大学 (3回目)

日時 平成24年10月31日(水) 9:00~11:40

場所 青森大学 第5会議室他

参加者 ソフトウェア情報学部 3,4年生 9名、薬学部1年生 2名、
経営学部 1,3,4年生 6名 計 27名

(教授) ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授他

SNW 東北 8名

基調講演 1 菊地新喜氏 「地球環境、エネルギー問題」

基調講演 2 清野 浩氏 「放射線と放射能について」

SNW 東北の青森大学における対話集会は3年、3回目である。

最初に第5会議室において、「地球環境とエネルギー問題」、「放射線と放射能」について、各30分の基調講演が行われた。その後、各学生6~9名とSNW 東北2名との4グループに分かれて約1時間グループ対話を行った。

対話の後、再び第5会議室に集まり、各グループ代表者から対話内容の発表があった。その間、講演、グループ対話についてのアンケートも実施した。

最後に、SNW 東北からグループ対話の講評を行い、日程を終了した。

(6) 宮城学院女子大学 (3回目)

日時 平成24年11月30日(金) 10:20~12:10

場所 宮城学院女子大学キャンパス

参加者 学生 生活文化学科3年生 14名

教員 林 基哉教授、日下 彩先生

SNW東北 3名

今回は従来の対話形式ではなく、林教授の講義の一コマで行った。従って、グループ分けをした対話ではなく放射線に関する講義と「はかるくんII」を用いたバックグラウンドの測定実習を行った。

講義 清野 浩氏 「放射線と放射能について」

東北エネルギー懇談会「ひろば408号」

低線量放射線被曝の身体的影響(坂本澄彦著)の概要説明

「はかるくん」によるバックグラウンド（大学の構内）の測定

・測定データの検討

(7) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催（8回目）

日時 平成25年2月18日（月） 13:00～17:30

場所 八戸工業大学 メディアセンター

参加者 八戸工大学生 約16名

教官 4名、 SNW東北 4名、 SNW連絡会 6名

基調講演 菅原 剛彦氏 「原子力・エネルギー問題の動向」

これまでの対話会の経験から、学生とリラックスした対話を持てるように事前に学生とシニアが昼食を共にするという学校側の配慮により、八戸名物のせんべい汁を囲んだ昼食会が行われた。これがスムーズな対話を進めるうえで功を奏した。

基調講演では、「いつでも・どこでも・誰でも・安く・必要量を・安定して手に入れたい」というのが電力エネルギーで、それには世界的なエネルギー需要の急増、化石燃料の枯渇等いろいろな厳しい現実があること、福島事故と原子力を取り巻く状況を説明され、締めくくりとして「次世代を担う学生は原子力問題を多角的に見極め、夢と希望を持って向き合ってもらいたい。何事にも危害を持って取り組めば問題を乗り越える知恵と自信が湧いてくる」とのエールを送った。

(8) 東北学院大学（5回目）

日時 平成25年2月22日（金） 13:00～17:00

場所 東北学院大学工学部 多賀城キャンパス 3号館2F

参加者 工学部3年生、4年生、院生 14名

SNW東北 10名

基調講演1 岸 昭正氏 「エネルギー・環境問題と原子力の役割」

基調講演2 清野 浩氏 「放射能と放射線」

基調講演の後、4グループに分かれて約2時間の対話を行った。

その結果について各グループの代表からの報告を聞いた。今回は急に学生の就職関係の行事が入ったようで参加者は予定の半数程度になったが、その分少人数なので対話がし易かったため、学生の発言は自然に突っ込んだ内容となった。

対話の内容は「原子力発電は必要かどうか」と「放射性物質の安全基準はどうなっているか」という点に集中していたが、対話の中ではマスコミの脱原発の風潮に対して原子力発電は必要であるとの認識を持ってくれたようだ。

3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会（公開）に合わせ、会員を対象に勉強会を3回実施した。

(1) 第10回会員勉強会（第4回定期総会での記念講演）

日時 平成24年6月4日（木）16:00～17:20

場所 東北エネルギー懇談会会議室

講師 シニアネットワーク連絡会運営委員 小川 博巳様

演題 「学生とシニアの対話交流の成果について」

小川様より「学生とシニアの往復書簡が作成されるまでの経緯」や「学生達の対話交流に対する期待」および「シニアネットワークの対話交流の方向性」など有意義で貴重なご講演を頂いた。

(2) 第11回会員勉強会

日時 平成24年8月27日（月）

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 26名

講演1 講師 元東北電力常務 阿部 壽様

講演 「女川につなみ対策について（歴史的検証）」

女川2号機の安全審査段階で「仙台平野における貞観11年三陸津波の痕跡高の推定」を実施したことなどについてご講演を頂いた。

講演2 講師 東北電力原子力部 嶋田副部長、飯田副長

演題 「IAEAの女川視察について」

「IAEAが行った女川原子力発電所の調査の概要」などについてご講演を頂いた。

講演3 講師 東工大名誉教授 藤井靖彦様

講演 「これからの日本の原子力について」

「世田谷市民大学公開講座の紹介」や「原子力発電に関する日本の課題」等についてご講演を頂いた。

(3) 第12回会員勉強会

日時 平成24年12月18日(火) 15:00~17:10

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 講師陣を含め25名

講演1 講師 東北電力原子力部 八重樫部長

演題 「IAEAによる女川原子力発電所耐震レポートの状況」

講演2 講師 東北電力原子力部 横式課長

演題 「新しい規制庁になってからの安全体系・安全審査の概要」

女川原子力発電所は激しい揺れと津波に襲われたが、IAEAの評価では被害の程度は予想以上に少ないということで、耐震強度が確保されていたことを認めている。また、原子力規制庁が出来て安全基準が抜本的に見直されていることに関連して、再起動の条件としてフィルター付きベントの導入が大きな課題になっていることなど重要テーマについて概要を伺った。

(4) 第13回勉強会

日時 平成25年2月8日(金) 15:00~17:30

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 20名

講演1 講師 SNW東北会員 阿部 寿氏

演題 「断層と津波について」

東通や敦賀など原子力規制委員会の現地調査の中で、従来問題ないとされた断層が耐震上評価すべき活断層と判定されていることから、「従来の安全審査が的確に行われていなかったのではないか？」と思われている可能性があり、安全審査の受審経験について阿部会員から説明頂いた。合わせて、活断層の評価や課題についても説明頂いた。

講演2 講師 SNW会員 菅原 剛彦氏

演題 「原子力・エネルギー問題の動向」

2月18日SNW、SNW東北合同で八戸工業大学の学生との対話があり、表題の基調講演を菅原幹事が行うため、勉強会を兼ねて原稿のレビューを行なった。

「今、国内外は厳しい（流動的な）状況にあるが、学生にとってエネルギー問題・環境問題は将来身近な問題になると予想される。このため、問題の本質を見極めキチンと理解するための、情報や知識や経験が大事になる。問題への挑戦が、夢と希望を与えてくれる。」との主旨のパワーポイントで説明を頂いた。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日（必要に応じて臨時）

- (1) 第31回 平成24年4月27日
- (2) 第32回 平成24年5月28日
- (3) 第33回 平成24年6月25日
- (4) 第34回 平成24年7月30日
- (5) 第35回 平成24年9月21日
- (6) 第36回 平成24年10月16日
- (7) 第37回 平成24年11月26日
- (8) 第38回 平成25年1月28日

(9) 第39回 平成25年2月25日

(10) 第40回 平成25年3月27日

5. 「SNW連絡会運営小委員会」および「エネルギー問題に発言する会運営委員会」
参加

原則毎月第3木曜日（8月は休会）（場所）原子力安全推進協会（JANSI）会議室
情報収集のため参加し、拡大幹事会で報告，必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成24年度参加シンポジウム、見学会

(1) 参加シンポジウムなど

・ 第49回アイソトープ・放射線研究発表会

主催 日本アイソトープ協会

日時 平成24年7月9日（月）～11日（水）

場所 東京大学 弥生講堂

参加者 山田信行

・ SNW第13回シンポジウム

主催 SNW連絡会

共催 エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会（EEE会議）、
NPO日本の将来を考える会

日時 平成24年8月4日（土）13:00～17:20

場所 東京大学武田先端知ビル5階

参加者 山田信行、高橋謙治

・ 第6回 東北原子力シンポジウム

主催 日本原子力学会東北支部

共催 日本保全学会 東北・北海道支部

日時

場所 青森県六ヶ所村交流プラザ・スワニー大会議室

参加者

・第3回南東北原子力シンポジウム

日時 主催 原子力学会東北支部

共催 福島大学大学院共生システム理工学研究科、日本保全学会東北・
北海道支部

場所

7. SNW 東北のホームページ作成

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ：<http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成24年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	参加 学 生 数	SNW東北とSNW（東京）の参加者	備 考
7/21(土)	*山形大 学	21名	SNW東北6名(菅原、高橋(弘)、高橋(謙)、 高島、山田、涌沢) SNW(東京)4名	3回 目

10/4(木)	*東北大学	38名	SNW東北6名(菊地、岸、菅原、高橋(謙)、山田、高島) SNW(東京)6名	7回目
10/19(金)	仙台高専	41名	SNW東北9名(菊地、菅原、清野、高橋(謙)、高橋(弘)、高島、水原、早坂、山田、涌沢)	3回目
10/31(水)	青森大学	27名	SNW東北8名(菊地、清野、高橋(謙)、岡本、岸、工藤、宮本、佐々木)	3回目
11/30(金)	宮城学院女子大学	14名	SNW東北3名(菊地、清野、山田)	3回目
2/18(月)	*八戸工業大学	16名	SNW東北4名(菅原、高橋(謙治)、岸、工藤) SNW(東京)6名	8回目
2/22(水)	東北学院大学	15名	SNW東北8名(岡本、菊地、岸、早坂、高橋(弘)、高橋(謙)、清野、宮本、)	5回目

(注) *印は東京のシニアネットワークと共催

参加学生 172名 SNW東北延べ 44名 SNW(東京)延べ16名

なお、全国大では今年度、愛知教育大学、京都女子大学、九州大学、福井・福井工大、九州工大、広島商船高専、福岡教育大学、熊本大学で実施している。ただし、SNW東北からは参加していない。

以上

シニアネットワーク東北 平成 23 年度活動報告

1. 第 3 回定期総会

日時 平成 23 年 6 月 7 日 (火) 15:00~17:00

場所 東北原子力懇談会会議室

総会后東北電力原子力部の大谷部長が講演

「東北地方太平洋沖地震による女川原子力発電所の状況について」

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成 23 年 5 月 26 日 (木) 10:00~16:50

場所 住友生命仙台ビル第 1 会議室

参加者 SNW東北 7名、SNW連絡会 7名、新入社員 46名と対話。

基調講演 1 ; 宅間正夫氏 「福島事故と今後の課題」

基調講演 2 ; 角南義男氏 「世界と日本のエネルギー事情・原子力の果たすべき役割・次世代を担う若手への期待」

東北電力では原子力発電所の保守要員の強化を目的として、通常より多くの新入社員を採用している。シニアとの対話は新入社員教育の一環として新人の原子力に対するモチベーションを高めるために効果的との考えから実施されて来たが、今回は特に 3 月の地震・津波による福島第一原発の事故の影響で新人には放射線に対する不安と原子力発電所再稼働の可否に対する不安が強かったため、対話の効用は例年より一層大きかったと思われる。例年女川原子力発電所構内で実施されてきたが、今年は 3 月の津波の影響で通勤・宿泊の手配が出来ないため仙台市内での実施となった。

(2) 山形大学 (2 回目) SNW連絡会との共催

日時 平成 23 年 7 月 16 日 (土) 10:00~17:00

場所 山形大学理学部大講義室他（小白川キャンパス）

参加者 理学部、工学部、農学部の教養課程 1 年生 53 名、
地球環境学科 4 年生 9 名、一般公募市民 4 名（講義のみ参加）
SNW 東北 8 名、SNW 連絡会 8 名

基調講演 坪谷 隆夫氏 「高レベル放射性廃棄物」

講演後、学生と昼食を共にした後、午後 3 時間 8 グループに分かれて対話した。なお、対話交流に先立ち 7 月 13 日「原子炉と発電」「福島原電と今後のエネルギー問題」と題して、学生と一般市民を対象に SNW 副会長の斎藤伸三氏が講演している。

（3）仙台高等専門学校（2 回目）

日時 平成 23 年 10 月 21 日（金） 13:15~17:15

場所 仙台高等専門学校（名取キャンパス）専攻科棟 マルチメディアルーム

参加者 仙台高専 専攻科 2 年 33 名、 SNW 東北 8 名

基調講演 1 清野 浩氏 「放射線と放射能」

基調講演 2 菊地 新喜氏 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演の後、4 グループに分かれて対話を行った。100 分間対話を行い、対話の内容について各グループから報告を聞いた。

学生は全員真剣に議論し、テーマの設定、論点の整理、集約などに大変好感が持てた。なお、福島事故がまだ収束せず、マスコミの煽るような情報が多い中、次世代を担う学生が原子力に対して極めて冷静に評価していること、また、海外飛躍を希望する学生が多数いることにも感銘を受けた。頼もしい学生さんたちだ。

（4）東北大学工学部 SNW 連絡会との共催（6 回目）

日時 平成 23 年 10 月 26 日（水） 13:00~18:00

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学専攻

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 60 名、教官 5 名

SNW 東北 6名、 SNW 連絡会 10名

対話の前日、SNW 連絡会の主要メンバーが講師となり福島原発事故後の日本の原子力の将来や今後の原子力発電の安全性向上対策などについて特別講義が実施されている。対話は8グループに分かれて行われ、マスコミの脱原発の風潮から原子力の将来に不安を持つ学生は例年以上に熱意が感じられ、有意義な対話ができる。

(5) 青森大学 (2回目)

日時 平成23年10月28日(金) 9:00~11:40

場所 青森大学 第5会議室他

参加者 青森大学ソフトウェア情報学部 矢萩教授他 学生 30名

SNW 東北 8名

基調講演1 菊地新喜氏 「地球環境、エネルギー問題」

基調講演2 清野 浩氏 「放射線と放射能について」

各30分の基調講演の後、4グループに分かれて60分間の対話を行い、対話の結果について各グループから報告を聞いた。エネルギー問題についても放射線のリスクについても正しい知識が非常に大切であること伝えたかったが、十分議論するには時間が短すぎたようだ。しかし少しでも考える機会にはなったと思われる。

(6) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (6回目)

日時 平成24年2月20日(月) 13:00~18:20

場所 八戸工業大学 メディアセンター

参加者 八戸工大学生 約30名(原子力地域人材プログラム参加者)

教官 3名、 SNW 東北 4名、 SNW 連絡会 6名

基調講演1 斉藤伸三氏 「福島原子力発電所事故を踏まえた動向」

基調講演1 川合将義氏 「食品中のCs137のリスクを読み解く」

講演は福島事故の原因、経緯、影響等全体を簡潔に説明、また極低レベルの

放射能の人体へのリスクについて平易で詳しい説明があった。

講演の後、5グループに分かれて約1時間半の対話をし、終了後各グループからの報告を聞いた。短時間の対話だが学生の皆さんが原子力に前向きに議論されていることが実感できた。

(7) 東北学院大学 (4回目)

日時 平成24年2月22日(水) 13:00~17:00

場所 東北学院大学工学部 多賀城キャンパス 3号館2F

参加者 工学部3年生、4年生、院生 32名

SNW東北 10名

基調講演1 岸 昭正氏 「エネルギー・環境問題と原子力の役割」

基調講演2 山田信行氏 「放射能と放射線」

各40分の講演の後、5グループに分かれて約1時間半の対話を行った。その結果について各グループの代表からの報告を聞いた。

対話の内容は「原子力発電は必要かどうか」と「放射性物質の安全基準はどうなっているか」という点に集中していたが、対話の中ではマスコミの脱原発の風潮に対して原子力発電は必要であるとの認識を持ってくれたようだ。

(8) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催 (2回目)

日時 平成24年3月8日(木) 9:45~13:35

場所 長岡技術大学 総合棟7Fシステム安全専攻講義室

参加者 高専生(全国から)17名、長岡技科大生5名、大塚教授、他に新潟県原子力活用協議会から6名の一般聴講があった。

SNW東北 2名、SNW連絡会 9名

基調講演 石井正則氏 「福島第一原発事故の教訓を踏まえたこれからの原子力人材育成」

今回の対話では昨年3月に発生した福島原発事故後の原子力をとりまく諸問

題、特に原子力技術者と社会とのコミュニケーション問題に焦点を当て、シニアと対話することにより学生の理解に資することを目的としていた。

なお、大学側ではこの対話会を高専機構原子力人材育成事業の一環として行い、24年度から開設する原子力システム安全工学専攻での講義「技術コミュニケーション論」の試行に位置付けている。

対話は5グループに分かれてコミュニケーションということを中心に行った。学生側は長岡技科大生の他、全国の高専から希望して集まった高専生であり、非常に熱のこもった対話となり感動的であった。

3. 勉強会

総会や拡大幹事会（公開）に合わせ、会員を対象に勉強会を3回実施した。

(1) 第1回勉強会

日時 平成23年6月7日（火）15:50~17:20

場所 東北原子力懇談会会議室

参加者 SNW東北 22名

講師 東北電力原子力部 大谷順一部長

テーマ「東北地方太平洋沖地震による女川原子力発電所の状況について」

総会後に実施したもので、会員から多くの希望があった東北電力の地震・津波の影響、現状と今後の見通しについて学んだ。福島第一原子力発電所事故の状況についても情報を得た。

(2) 第2回勉強会

日時 平成23年7月7日（木）16:00~17:25

場所 東北電力本店1F会議室

参加者 SNW東北 18名、東北電力 1名、東北原子力懇談会 6名

講師 在日フランス大使館原子力担当参事官

ピエール・イヴ・コルディエ氏

テーマ 「フランスの原子力事情」

フランスは原子力か再生可能エネルギーかの選択ではなく、その両方が必要との考えを取っており、両方に投資している。原子力はエネルギー・ミックスの一部であり、将来もそうあり続ける。使用済み燃料はリサイクル利用の方針であり、1200Mt 以上が MOX 燃料として利用されている。

長期的にはより安全性を高めた第 4 世代炉に移る。また核融合炉に向け ITER の研究も続ける。ストレステストも実施しており 2~3 か月かけて評価する。ハイテクの国である日本での原発事故に衝撃を受けており、反対派は活動を強めている。講演終了後、東北電力本店ビルの 16 階会議室で意見交換会が催された。

(3) 第 3 回勉強会

日時 平成 23 年 12 月 12 日 (月)

場所 東北原子力懇談会会議室

参加者 SNW 東北 18 名、東北原子力懇談会 2 名

講師 東北電力原子力部 大谷順一部長、加藤功副部長

テーマ 「女川・東通原発の安全性向上対策の進捗状況」

原子力発電所の再稼働でその前提となっているストレステストおよび安全性の向上対策については会員の関心が最も高く、対話活動の上でも必須の情報であるため、6 月に引き続き東北電力の現状を講演して頂いた。

また終了後、ビル地下のレストランで反省会を行った。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第 4 火曜日 (必要に応じて臨時)

(1) 第 23 回 平成 23 年 4 月 14 日

(2) 第 24 回 平成 23 年 5 月 24 日

(3) 第 25 回 平成 23 年 6 月 28 日

(4) 第 26 回 平成 23 年 9 月 21 日

(5) 第 27 回 平成 23 年 11 月 2 日

(6) 第 28 回 平成 24 年 1 月 18 日

(7) 第29回 平成24年2月13日

(8) 第30回 平成24年3月29日

5. SNW 連絡会運営小委員会への参加

原則毎月第3木曜日（8月は休会）（場所）原子力技術協会会議室

情報収集のため参加し、拡大幹事会で報告，必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成23年度参加講演会，シンポジウム，見学会

(1) エネルギー問題に発言する会 月例講演会

SNW 連絡会運営小委員会と同日の午後開催されており、SNW 東北から毎回1名程度参加して情報収集を行った。

(2) 参加シンポジウムなど

・SNW第12回シンポジウム

主催：SNW連絡会 共催：エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会（EEE会議）

日時 平成23年8月6日（土）

場所 東京大学武田先端知ビル7階

「どうするこれからの原子力 — 福島第一原子力発電所事故を踏まえたわが国の原子力の今後」と題して開催され、一般市民も含め約200名が参加した。SNW 東北から2名（高橋謙治、山田信行）参加した。

・第5回 東北原子力シンポジウム

主催 日本原子力学会東北支部

共催 日本保全学会 東北・北海道支部

日時 平成23年10月18日（火）10:30~17:50

場所 青森県六ヶ所村交流プラザ・スワニー大会議室

参加者 一般 77 名、学生 26 名 見学会参加者 32 名

翌 19 日（水）には、電源開発(株)大間建設所、RFS(株)リサイクル燃料備蓄センター建設現場、東北電力(株)東通原子力発電所の見学会があり、SNW東北より山田信行が参加した。学生 26 名は東北大学の量子エネルギー工学科学生。

・第 2 回南東北原子力シンポジウム

日時 平成 23 年 11 月 29 日（火）13:00～17:30

主催 原子力学会東北支部

共催 福島大学大学院共生システム理工学研究科、日本保全学会東北・北海道支部

場所 コラッセふくしま 3 階企画展示室

参加者 石井慶造（支部長）ほか、学生を含め 69 名（懇親会 48 名）

福島第一原子力発電所の事故を直接取り上げるのではなく、事故による放射性物質飛散や除染、農作物等に対する影響、地域に対する諸支援活動等が報告された。SNW東北から 2 名（菅原剛彦、早坂明夫）が参加した。

(3) 見学会

日時 平成 24 年 2 月 21 日（火）

場所 東北電力（株）八戸太陽光発電所（八戸火力発電所に隣接）

参加者 菅原剛彦、早坂明夫、松岡俊司の 3 名

八戸工業大学での対話の翌日、最近完成したばかりのメガソーラの一つである八戸太陽光発電所を視察した。

7. SNW 東北のホームページ作成

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新し

ている。

(ホームページ : <http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 23 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大 学	参 加 学 生 数	SNW東北とSNW（東京）の参加者	備 考
7/16(土)	* 山形 大学	62名	SNW東北8名(新田目、菊地、岸、菅原、高橋 (弘)、高橋(謙)、山田、涌沢) SNW(東京) 8名	2回 目
10/21 (金)	仙台大 専	33名	SNW東北8名(岡本、菊地、木村、菅原、清野、 高橋(謙)、早坂、山田)	2回 目
10/26 (水)	* 東北 大学	60名	SNW東北6名(新田目、菊地、岸、菅原、山田、 涌沢) SNW(東京)10名	6回 目
10/28 (金)	青森大 学	30名	SNW東北8名(菊地、菅原、清野、高橋(謙)、 早坂、松岡、宮本、涌沢)	2回 目
2/20(月)	* 八戸 工業大 学	30名	SNW東北4名(菅原、鈴木、早坂、松岡) S NW(東京)6名	6回 目
2/22(水)	東北学 院大学	32名	SNW東北10名(岡本、菊地、岸、菅原、高橋(弘)、 高橋(謙)、松岡、水原、宮本、山田)	4回 目
3/8(木)	* 長岡 技科大 学	22名	SNW東北2名(岸、馬場) SNW(東京)8 名	2回 目

(注) *印は東京のシニアネットワークと共催

参加学生 269名 SNW東北延べ 46名 SNW(東京)延べ 32名

なお、全国大では今年度、愛知教育大学、北海道大学、九州大学、関東複数大学（東大、筑波大他合同）、福井大学、関西複数大学（阪大、近大他合同）、広島商船高専、福岡教育大学、長崎大学で実施している。ただし、SNW東北からは参加していない。

以上

平成 23 年 6 月 7 日

シニアネットワーク東北 平成 22 年度活動報告

わが国の原子力推進を中心とするエネルギー政策を念頭に、地球温暖化やエネルギー問題に対する原子力の役割について、次世代を担う学生層の理解を深めるために、ここ数年来、学生との対話活動を展開してきた。

原子力発電を太陽光、風力発電などの自然エネルギー発電と比較し、原子力発電は、出力が安定していて設備利用率が高く発電コストが低いこと、二酸化炭素を排出しないこと、技術集積度の高い準国産エネルギーであること、原子炉内の大量の放射能は 5 重の壁に守られてチェルノブイリのようなことは起こりえないので安全であることなどを説明し、大方の学生諸君の理解を得てきた。

しかし、平成 23 年 3 月 11 日発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故は、われわれのこれまでの理解と説明を覆すものであった。有史以来の巨大津波による被災とは言え、周辺地域への大量の放射能が放出されたため、国際的事故評価尺度に照らし、政府はチェルノブイリと同じレベル 7 と評価した。

懸命な事故収拾作業は現在も進行中であり、事故の原因はもとより技術的問題や法制上の問題、社会システムの見直し、国際協力のありようなどは順次検証され解明されてくるものと思われる。

政府はこの事故を踏まえ、平成 22 年 6 月策定したわが国のエネルギー基本計画の抜本の見直しを表明しており、SNW 東北としてはこのような事態の推移を見ながら今後の対話活動について計画を練り直す必要がある。

[I] 主な活動

1. 第 2 回定期総会

日 時；平成 22 年 6 月 1 日 於；東北原子力懇談会会議室

参加者；八島、小林、高橋各顧問ほか会員約 30 名

議 事；平成 21 年度活動報告および平成 22 年度活動計画、

講演会；「がんと放射線治療」

講師；東北大学名誉教授、東北放射線科学センター理事長 坂本澄彦先生

2. 対話活動

(1) 東北電力新入社員 (第 4 回)

日 時；平成 22 年 5 月 17 日 於；女川原子力発電所内 訓練センター

参加者；SNW 連絡会；8 名、SNW 東北；9 名、新入社員 43 名と対話。

基調講演

「原子力エネルギー利用の今後、そして安全と安心」SNW連絡会代表幹事金氏顕氏

(2) 青森大学 (初回)

日 時；平成22年7月8日 於；青森大学校舎

参加者；学生(110名) SNW東北(9)

基調講演 ①「地球環境、エネルギー問題」 講師；菅原剛彦氏

②「放射線と放射能」 講師；清野浩氏

基調講演の後学生約35名が4グループに分かれて対話した。

テーマ； ①地球環境とエネルギー、②原子力発電とその安全性、③放射性物質の処理
処分、④放射線 に分かれて対話

(3) 山形大学 SNW連絡会との共催 (初回)

日 時；平成22年7月17日 於；山形大学理学部校舎 学生(47名)

参加者；SNW東北(7名)、SNW連絡会(9名)

基調講演；①「原子力発電」 講師；齋藤伸三氏

②「高レベル廃棄物」 講師；坪谷隆夫氏

テーマ；齋藤和男教授の「放射線科学」を学ぶ1年生で授業の一環での対話であった。

①原子力発電の原理(原子力の必要性)、②原子力発電の安全性(世界と日本の動向)、
③原子力と環境問題(他のエネルギーと原子力) ④未来の原子力発電(原子力と環境問
題)、⑤放射性廃棄物(原子力発電の安全性)、⑥放射線の性質と利用(食品や医療、材
料開発)、⑦原子力に関わる仕事(核燃料サイクル) 各テーマ毎に分かれて対話。

(4) 東北大学工学部 SNW連絡会との共催 (第5回)

日 時；平成22年10月7日 於；東北大学工学部量子講義棟

参加者；SNW東北(8名)、SNW連絡会(9名)

東北大学；学生(49名、量子・エネルギー工学科の4年生と修士) 教員3名

基調講演「エネルギー大消費・原子力カルネッサンス&学生諸君への期待」 小川博巳氏

テーマ；①次世代炉、②核融合、③原子力理解、④エネルギー収支、⑤学生に求められる
能力、⑥企業と原子力、⑦再処理、⑧保全に分かれて対話

(5) 仙台大専 (初回)

日 時；平成22年11月11日 於；仙台大専校舎

参加者；SNW東北(8名) 受講生38名(名取キャンパス専攻科2年生)

基調講演；①「エネルギー・地球環境問題と原子力の役割」 講師；菊地新喜氏

②「放射線と放射能」 講師；清野浩氏

テーマ； ①エネルギーと環境、②環境エネルギーと技術開発、③新エネルギーと原子

力、④放射線と放射能に分かれて対話

(6) 宮城学院女子大学 (第2回)

日時；平成22年11月26日 於；宮城学院女子大学校舎

参加者；学生(23名)

SNW東北(9名)、SNW連絡会(1名)

基調講演；①21世紀の地球環境とエネルギー 新田目倅造氏

②放射能・放射線について 清野 浩氏

基調講演後3つのグループに分かれて対話

テーマ；①地球温暖化とエネルギー、②新エネルギーと省エネ、③放射能と放射線

(7) 石巻専修大学 (初回)

日時；平成22年12月3日 於；石巻専修大学講義室

参加者；学生(37名)

SNW東北(3名)

特別講義；エネルギー、環境と原子力の役割 講師 新田目倅造氏

注) 時間の関係で対話はなかった。

(8) 長岡技術科学大学 SNW連絡会との共催 (初回)

日時；平成22年12月9日 於；長岡技術科学大学校舎

参加者；学生(16名)

SNW東北(2名)、SNW連絡会(7名)

基調講演「原子力発電の役割と安全性」 講師；石井正則氏

講演のあと、4グループに分かれて対話

テーマ；①柏崎刈羽原発があることのメリットデメリット、②原子力になぜ一般公衆は不安を感じるのか、③技術者の公衆への説明責任および必要な技術者のスキル、④これからの原子力技術者像

(9) 東北学院大学 (第3回)

日時；平成23年2月15日 於；東北学院大学工学部校舎(多賀城市)

参加者；SNW東北(10名)工学部学生(20名)

基調講演；

①「地球環境、エネルギー問題」 講師；岸昭正氏

②「放射線と放射能」 講師；山田信行氏

講演の後、4グループに分かれて対話

テーマ；3グループ共通①環境とエネルギー(原子力を含む)、②放射能・放射線

(10) 八戸工大 SNW連絡会との共催 (第5回)

日 時；平成23年2月18日 於；八戸工大メディアセンター

参加者；SNW東北(6名)、SNW連絡会(8名)

学生53名

基調講演；「エネルギー情勢と原子力の課題」 講師；岸本洋一郎氏

基調講演後各テーマごとに分かれて対話。

テーマ；①原子力関連設備の構造材料、②原子力関連機器の設計や保守、③電気設備と原子力発電、④測定器などの電子機器と原子力、⑤原子力発電所における電子制御、⑥情報システムと原子力発電、⑦女性の原子力の仕事・原子力と環境、⑧放射線の性質と利用(食品・医療・材料等)

3. 拡大幹事会

原則第4火曜日 定期(隔月)、必要に応じて臨時

場所；東北原子力懇談会会議室

第13回 4/20、5/24、6/11、6/29、8/24、9/21、10/27、11/16、1/18、

第22回 2/22、なお、3月度は震災のため流会、

4. SNW 連絡会運営委員会への参加

原則毎月第3木曜日(8月は休会) 場所；原子力技術協会会議室

情報収集のため参加し、拡大幹事会で報告、必要に応じて会員にもメール等で紹介

5. 勉強会

拡大幹事会(公開)に合わせ、会員を対象に勉強会を3回実施した。

(1) 第4回 平成22年8月24日 場所；東北原子力懇談会会議室

テーマ；「最近の北欧の原子力動向について」 講師；土田正和氏

参加者；SNW東北 顧問、会員22名が参加し、意見を交換

(2) 第5回 平成22年11月16日 場所；東北原子力懇談会会議室

テーマ；「SNW 東北への期待」 講師；SNW 連絡会幹事 小川博巳氏

参加者；SNW 東北会員12名

(3) 第6回 平成23年1月18日 場所；東北原子力懇談会会議室

テーマ；「最近の原子力の動向について」 講師；東北電力(株)原子力部副部長
加藤 功氏

参加者；SNW会員17名

6. 平成 22 年度参加講演会、シンポジウム、見学会

- (1) エネルギー問題に発言する会 月例講演会
SNW 連絡会運営委員会への参加に併せ出席 情報収集
- (2) 参加シンポジウムなど（主催：SNW 連絡会）
 - ・ 8 月 7 日開催の「SNW 主催第 11 回シンポジウム」2 名参加
- (3) 見学会
 - ・ 高速増殖原型炉「もんじゅ」見学会 平成 22 年 11 月 4 日～5 日
3 名参加 「もんじゅ」「美浜原子力 PR センター」「アクアトム」視察
 - ・ 女川原子力発電所見学会 平成 22 年 12 月 9 日 6 名参加
 - ・ 日本原燃再処理工場見学 平成 23 年 2 月 17 日 4 名参加
「日本原燃」「六ヶ所スマートグリッド実証試験」を視察

7. SNW 東北のホームページ作成

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。22 年度は仙台市に本拠を置くデータセンターとレンタルサーバーの契約を結び、ホームページを会員相互のデータベースとして活用出来るようにした。内容は必要に応じ随時更新している。

[II] 対話にかかる特記事項

1. シニアの全体的印象と感想

① 学生は概ねはじめで熱心に取り組み、意欲的で好感がもてた。一人ひとりに発言させる対話は、原子力に対する漠然とした不安を解消させ、また、省エネの必要性を理解させるのに極めて有効である。SNW 東北としては対話活動を今後も積極的に推進すべきだと感じている。（菊地ほか）

また、（仙台高専の）学生の理解度はかなり高いし、発言の少なかった青森大学、八戸工大でも事後アンケートを見ると関心度、理解度はそれなりに高いようだ（菅原ほか）。

② 対話が 2 回目になるとセッティングが上手になり、対話が円滑になった。（清野ほか）

③ 放射線の利用など放射能・放射線についての関心が高く、知識吸収の意欲を感じさせる。しかし、空間線量を実測させても実測結果を話し合う時間がないのは残念。（清野）もう少し時間があれば、さらに有効な議論ができた（菊地ほか）

④ マスコミ情報など皮相的情報に慣らされているようだが、原子力や太陽光などの経済性、安定性、世界的動向など、基礎的な知識や情報を与えると学生は正しく理解してくれるようだ。対話の効果を実感できた。（新田目ほか）

④原子力開発の歴史について若い学生層に理解を求めるのはムリかもしれないが、歴史感覚は大切にしてもらいたい。(宅間・SNW連絡会)

2) 学生からの注目すべき質問, コメント

①原子力発電の必要性は理解できたが、原子力発電を増やすことのデメリットを考えなければならない。原子力は安くて、環境問題が少ないといっても放射能が心配。放射線の遺伝的影響および放射線の安全性について知りたい。(東北学院大学, 宮女大, 山形大学)

②メディアからの情報しかないが、実務に携わった方から話を聞いて原子力について理解できた。一方、原子力業界の「隠蔽・改竄体質について」指摘。(東北学院大学, 宮女大, 長岡技科大)

③中国やアメリカでエネルギー消費が多いのは無駄使いが多いからでは？(宮女大)

④わが国のエネルギー自給率が低いことを初めて知った。太陽光や風力をもっと増やしたほうがいい。(宮女大)

⑤発展途上国が「CO₂削減は先進国がやってから」というのは自己中心的、日本だけ頑張っても駄目だ。(宮女大)

⑥食物や人体から放射線が出ていることや放射線がいろいろな面で利用されていることを知らなかった。(宮女大)

⑦「技術」には光と影の部分があるという言葉が印象的だった。(東北学院大学)

⑧原子力が中学・高校からの教育や学習などで身近なものになっていて、情報がキチンと伝われば理解され、不安解消につながる。(長岡技科大)

⑨対話は将来の環境やエネルギー問題について、いろいろな視点での話が聞けた。(東北学院大学) また、いつもと違う方向と新鮮さで考えさせられる機会になり、楽しく対話できた。(仙台高専)

⑩プルサーマルや高速炉など原子力を幅広く理解する機会になったし、将来は自分たちの技術者としての力が必要だと感じた。(仙台高専)

⑪対話は講義と違って、疑問をその場で解決でき、自分で考える機会でもあり、また、表現力の大切さも知った。楽しく充実した時間だった。(仙台高専)

⑫大学では両極端でない客観的な立場で中立的な説明が必要。(東北大学)

3) 今後の対話の進め方について

①事前のアンケートでグループ分けするのは難しい面があるので、一つか二つのテーマを複数グループで対話してもよいのではないか。(清野)

長岡技科大では対話の前半・後半で違うシニアと対話したかったという声もあった。(菅原)

②時間的制約から説明が不十分でキチンと理解を得られない懸念が残った。(清野, 菅

原)

③出席番号で分けたので原子力に関心の有る学生と先端技術に関心のある学生が混在し、シニアも学生も大変だったのでは？（仙台高専）

4) まとめ

1年を振り返って；

①大学における対話交流にはできるだけ多くの会員に参加していただきたいので、対話準備のための拡大幹事会は定例化する。（原則毎月第4火曜日とした）。

②任意団体であるSNW東北対話活動を大学側に受け入れてもらうためには客観性、信頼性がもとめられる。清野 浩氏（東北大学医学部医療短大名誉教授，医博），菊地新喜氏（東北学院大学名誉教授，工博）、早坂明夫氏（福島大学名誉教授）の参加は，大学との円滑な折衝に極めて有意義であった。

③高橋謙治，高橋弘道，木村喬，涌沢光春各氏は今年度初めて対話に参加していただいた。各氏の専門的バックグラウンドは異なるが、対話で学生は就活の一環として各氏のもつ知見や経験に大変関心がある。シニアの対話参加者は特定の方に偏りがちだが、さらに多くの会員に参加願いたい。

最近、大学側もカリキュラムの中で学生と企業OBなど社会人との接触の機会を積極的に設けようとしている。

ご参考) 対話への参加者

実施月日	実施大学	参加学生数	SNW 東北/SNW (東京) の参加者	備考
7/8 (木)	青森大学	110 名	清野, 菊地, 菅原, 岡本, 宮本, 岸、馬場, 山田	初回
7/17 (土)	* 山形大学	47 名	菊地, 高橋 (弘), 早坂, 菅原, 高橋 (謙), 岸, 馬場、SNW (東京) 9 名	初回
10/7 (木)	* 東北大学	49 名	菊地, 新田目, 柴田, 菅原, 岸, 木村, 山田, 高橋 (謙) SNW (東京) 9 名	5 回目
11/11 (木)	仙台高専	38 名	清野, 菊地, 早坂, 岸, 菅原, 山田, 涌沢, 三浦	初回
11/26 (金)	宮城学院女子大学	23 名	清野, 菊地, 早坂, 新田目, 菅原, 山田, 宮本, 高橋 (謙), 三浦	2 回目
12/3 (金)	石巻専修大学	37 名	新田目, 菅原, 岸, (新田目氏による基調講演のみで対話はなし)	初回
12/9 (木)	* 長岡技術科学大学	16 名	菅原, 馬場 SNW (東京) 7 名	初回
2/15 (火)	東北学院大	20 名	岡本、菊地、木村、岸、高橋 (謙)、早坂、松岡、三浦、宮本、山田	3 回目
2/18 (金)	* 八戸工大	52 名	新田目、岡本、柴田、菅原、清野、高橋 (謙) SNW (東京) 8 名	5 回目

注) *印は東京のシニアネットワークと共催

合計 参加学生数 392 名 SNW東北延べ 61 名 SNW 延べ 33 名 である。

なお、全国大では今年度、愛媛教育大、北大、筑波大、長崎大、福井工大、広島商船高専、金沢工大、東京 4 大学、静岡大各大学で実施。ただし、SNW東北からは参加していない。

[Ⅲ]対話に関連した報告書の作成について

1) エネルギー、地球環境と原子力の役割 (新田目倅造氏)

①エネルギーの基礎、②エネルギーの生産と消費、③地球温暖化問題、④再生可能エネルギー、⑤原子力発電の役割をテーマに新田目倅造氏が著作し、石巻専修大学での特別講義に使用した。(70 ページ)

2) スマートグリッドについて (松岡俊司氏)

学生の関心テーマであり、SNW 東北の勉強会で松岡俊司氏が講演した。太陽光、風力発電などの分散型電源はコストはもとより、不安定電源が系統に及ぼす影響などの問題点を指摘した。また、太陽光発電の大量導入は低炭素社会構築の一つの手段として必要とは考えられるが、大量導入に伴う技術的課題に加え、諸設備と運用に膨大な費用を要する事からこれらの費用負担(時系列的な面も含め)の在り方などについては、特に経済・社会両面でのコンセンサスが必要なことも指摘した。

なお、福島第一原子力発電所の事故を契機に、菅首相は現行の「エネルギー基本計画」を白紙に戻し、原子力依存を改めて太陽や風力など再生可能エネルギーを「基幹エネルギー」に加えるよう表明した。現行計画(2030年、再生可能エネ20%)でも容易でないと見られていたものが、さらに拡大するとなればスマートグリッドで提起されている諸課題は、コスト負担の在り方を含めて一段と厳しいものとなるう。

(9 ページ)

3) 福島第1原子力発電所からの放射能、放射線について (清野 浩氏)

周辺住民に甚大な被害をもたらした避難や風評被害の根拠となっている放射能・放射線のレベルについて、連日報道されているので、SNW 東北会員の勉強のために、なにがどう危いのか、危くないのか清野浩先生が報告書に纏めた。例えば、自然放射線については、宇宙からの宇宙線(0.36mSv/年)、大地からの放射線(0.41mSv/年)、食べ物からの放射線(0.33mSv/年)などがあり、平均約 2.4mSv/年である。一方、食べ物には放射性カリウム 40 が含まれており、人体には放射性カリウム 40 を平均で約 0.014 g 有し、約 7000Bq の放射能を持っていて、一生涯被曝しても問題はない。福島の場合、ほうれん草などの農作物が出荷停止になったが、暫定基準値は色々な研究データのバラつきの中で一番安全側の下限をとっているの、ほうれん草や牛乳を1年間摂取し続けても一般公衆の年間の線量限度 1 mSv を超えることはないと考えてよい。(7 ページ)

4) 企業の求める人材像とその背景について (新田目倅造氏)

対話に参加する学生の多くは就活に結び付け、企業の求める人材像に関心があるので、SNW(東京)がアンケートした結果などをベースに新田目倅造氏が報告書に纏めた。例えば、協調性、素直さ、思いやり、礼儀、積極性、責任感、忍耐力、創造力、判断力、社会常識、専門分野の基礎知識、語学力など(スライド 20 コマ)。

以上